

「公社債の店頭取引等に関するワーキング・グループ」(第3回)

平成26年3月25日(火)  
15時30分～  
証券保管振替機構 会議ホール

次 第

1. 新日銀ネット総合運転試験への対応について

- (1) 新日銀ネット全面稼働開始に向けた総合運転試験の実施概要について
- (2) 新日銀ネット第2段階稼働開始に向けた総合運転試験に関する検討事項について
- (3) 今後の進め方について

2. その他

以 上



2014年2月  
日本銀行

## 新日銀ネット全面稼働開始に向けた総合運転試験の実施概要について

### (はじめに)

- 現在、日本銀行は、日本銀行金融ネットワークシステムについて、新たなシステム（以下、「新日銀ネット」といいます。）を構築するための対応を進めています。新日銀ネットの構築は2段階で行い、第1段階は2014年1月に稼働を開始しました。また、第2段階で稼働を開始する業務（以下、第2段階の稼働開始を「全面稼働開始」といいます。）については、2013年9月までに、入力画面や出力帳票のイメージを始めとする機能の詳細を整理した資料を利用金融機関等の皆様にお示ししました。
- 第1段階と同様、全面稼働開始に向けては、利用金融機関等の皆様に、実際に新日銀ネットを利用して事務を確認・習熟していただく総合運転試験（以下、「RT」といいます。）を実施する予定です。本資料は、RTの実施スケジュールや具体的なテストの内容、新日銀ネットに設定する業務面・システム面の環境などを取りまとめたものです。
  - 本資料は「新日銀ネット構築のスケジュール（2013年10月時点）について」の別紙「開発スケジュール（2013年10月時点）」において、「第2段階対象業務」の「利用金融機関等に関する事項」中、「総合運転試験関連の開示」として、2014年2月頃にお示しすることとしていた「実施要領」に相当するものです。
- 全面稼働開始後に新日銀ネットを利用して行う業務には、日銀当座預金や国債の振替、現金の払戻請求などの基本的な業務が含まれており、すべての利用金融機関等において、所要の準備を進めていただく必要があります。RTの機会を積極的に活用し、新日銀ネットを利用する事務の確認・習熟を図っていただきますようお願いします。
- 利用金融機関等の皆様におかれては、本資料をお読みいただき、日銀ネットを利用する店舗（以下、「日銀ネット利用先」といいます。）毎に参加するテストの種類や回数をご検討ください（RTへの参加についての考え方は「4. RTの参加対象先」をご覧ください。）。日本銀行は、2014年5月頃を目処に、利用金融機関等の皆様に対して、これらの点をお伺いする予定です。

- 本資料に関してご不明な点やご質問等がありましたら、次の照会先にご連絡ください。なお、可能な限り電子メールにてご連絡をいただければと存じますので、ご協力のほどをお願いします。

(本件に関する照会先)

日本銀行 業務局 総務課  
新日銀ネット企画グループ

【電子メール】 new-bojnet@boj.or.jp  
【電 話】 03-3277-2805、03-3277-1585

なお、次の①、②に掲げる事項については、日本銀行システム情報局にご照会ください。

- ① 日銀ネット端末（入出力グループの設定、システム環境の設定）やファイルアップロード・ダウンロード機能に関する事項  
＜本文5.（2）ハ、本文5.（3）イ、およびハ、関係＞

日本銀行 システム情報局 新日銀ネット構築運行課  
対外接続基盤グループ（新日銀ネット端末担当）

【電子メール】 post.issd154@boj.or.jp  
【電 話】 042-351-1795

- ② コンピュータ接続に関する事項＜本文5.（3）ロ、関係＞

日本銀行 システム情報局 新日銀ネット構築運行課  
対外接続基盤グループ（新日銀ネットCPU接続担当）

【電子メール】 bojnetcpu@boj.or.jp  
【電 話】 042-351-1137

(お願い) 電子メールでのご照会の場合には、件名を「新日銀ネットRT概要に関する質問の件」としてください。  
電話でのご照会の場合には、冒頭「新日銀ネットRT概要に関する質問の件」である旨をお伝えください。

(本資料の活用方法)

利用金融機関等の皆様におかれては、まず、1. から4. をお読みいただき、「RTへの参加希望調査」(2014年5月頃を目処に実施予定)に向けて、参加するテストの種類や回数をご検討ください。そのうえで、5. をお読みいただき、テストへの参加に向けた準備を進めてください。また、「RTへの参加希望調査」の中では、新日銀ネットにおいて新たに必要となる金融機関等の情報をお伺いします。利用金融機関等の皆様におかれては、(別添)をお読みいただき、日本銀行に申し出る内容を予めご検討ください。

目次

	頁		頁
1. RTの概要	4	5. RTの実施環境	19
▶ テストは2段階(フェーズ)に分けて実施します。この項目では、各フェーズの目的や概要をお示しします。		▶ この項目では、テストの実施にあたって、新日銀ネットに設定する業務・システム面の環境をお示しします。	
(図表1) フェーズ毎のテスト概要		(1) 共通事項	
2. RTの回数・日程	7	▶ システム運用日付、主要な運行スケジュール等の基本的な事項をお示しします。	
▶ テストは合わせて7回実施します。この項目では、各回の実施予定日をお示しします。		(図表5) システム運用日付およびテスト環境の設定方法	
(図表2) テストの実施回数・実施予定日		(図表6) フェーズ毎の主要な運行スケジュール	
3. RTのテスト内容	8	(2) 業務面の環境	
▶ この項目では、新日銀ネットを利用して行う事務の種類別に、テストの実施予定や実施内容(概要)をお示しします。		▶ 利用金融機関等の情報、口座残高、架空銘柄、入出力グループの設定方法等をお示しします。	
(図表3) 事務種類別のテスト実施予定		(図表7) 口座残高の増額内容	
(別表) 事務種類別のテスト実施内容(概要)		(図表8) 架空銘柄の設定内容	
4. RTの参加対象先	12	(3) システム面の環境	
▶ この項目では、日銀ネットの利用業務別に、RTへの参加をご判断いただく際の考え方をお示しします。		▶ 新日銀ネットの利用方法(日銀ネット端末、コンピュータ接続、ファイルアップロード・ダウンロード機能)に応じ、テストに参加する際の留意事項をお示しします。	
(図表4) RT参加についての考え方(日銀ネットの利用業務別)		6. RTに関する情報開示等のスケジュール	28
(参考) 決済システムによるRTへの参加予定		▶ この項目では、RTへの参加希望調査の実施・回収時期、テスト実施手順書の開示時期等をお示しします。	
		(別添) 新日銀ネットで新たに必要となる金融機関等の情報について	

## 1. RTの概要

○ RTは、全面稼動開始時点から安定的に事務を行えるようにするため、日銀ネット利用先、主要な決済システムおよび日本銀行の実務担当者が参加して、新日銀ネットを利用して行う業務の内容や端末操作、各種残高の管理方法等を確認・習熟するとともに、各種の取引・決済全体が円滑に行われることを総合的かつ最終的に確認する目的で実施します。

—— 日銀ネット利用先におかれては、新日銀ネットの端末操作等のほか、新日銀ネットを利用して行う事務の手順や行（社・庫）内の態勢が整備されていることについても、併せてご確認ください。

○ RTは、目的に応じて、2つの段階に分けて実施します。まず、「フェーズ1」では、日銀ネット利用先と日本銀行との間の取引・決済に関する事務の確認・習熟を図るとともに、日銀ネット利用先間の取引・決済に利用する機能の確認を行います。次に、「フェーズ2」では、短期金融市場・証券市場・外国為替市場取引の参加者または全国銀行内国為替制度の参加者である日銀ネット利用先が参加し、全面稼動開始後の市場慣行等に沿って、日銀ネット利用先間の取引・決済全体が円滑に行われることを確認します。フェーズ毎に実施するテストの概要は次表のとおりです。

(図表1) フェーズ毎のテスト概要

段 階	概 要
フェーズ1	<p>①日本銀行との取引に関する試験</p> <p>日本銀行がお示しするシナリオに従って、全面稼動開始後の入出力機能を利用し、日銀ネット利用先と日本銀行との間で行う各種の取引・決済に関する事務の確認・習熟を図ります。</p> <p>②フリーアクセスによる機能確認</p> <p>①に加えて、テスト参加先が、全面稼動開始後の入出力機能を自由に確認できる時間帯（これを「フリーアクセス時間帯」といいます。）を設けます。この時間帯には、個別のテスト参加先のニーズに応じて、日銀ネット利用先間の取引・決済に利用する機能を確認することができます<sup>(注)</sup>。</p>

段 階	概 要
	<p>—— ②に関し、日本銀行はテストの実施手順をお示ししません。テスト参加先は、他のテスト参加先と事前にご調整いただいたうえで、適宜テストを実施してください。特に、短期金融市場、証券市場および外国為替市場取引の参加者は、この機会を利用して、フェーズ2の実施に向けた準備を行ってください。</p>
フェーズ2	<p><b>①市場取引に関する試験</b></p> <p>短期金融市場取引活性化研究会（短取研）、日本証券業協会（日証協）、全国銀行協会（全銀協）および全国銀行資金決済ネットワーク（全銀ネット）が企画するテストを行います。短期金融市場、証券市場および外国為替市場取引の参加者または全国銀行内国為替制度の参加者である日銀ネット利用先は、短取研、日証協、全銀協および全銀ネットから示されるシナリオに基づき、全面稼動開始後の市場慣行等に沿って、取引・決済全体が円滑に行われることを実践的に確認します。なお、この試験に参加する日銀ネット利用先の範囲や参加の回数については、2014年5月頃を目処に短取研、日証協、全銀協および全銀ネットからお知らせします。</p> <p>—— ①のテストは、現行日銀ネットの下で実際に行われた取引・決済を、全面稼動開始後の入出力機能を利用して再現する方法で実施します。テスト参加先は、予め、現行日銀ネットの下で実際に行われた短期金融市場・証券市場・外国為替市場の取引・決済および大口内国為替取引に関するデータを取得・保存したうえで、全面稼動開始後における新日銀ネットの機能・仕様等に併せて修正・追加を行い、テストデータを準備してください。なお、大口内国為替取引に関するテストの実施方法については、2014年5月頃を目処に全銀ネットからお知らせします。</p> <p>—— 短取研、日証協、全銀協および全銀ネットでは、①のテストにおいて、取引・決済の件数（事務量）が集中する日を想定したシナリオを設ける方向で検討を進めています。このテストにより、特に事務量の多い大口内国為替取引、外国為替円決済、国債振替決済および国債DVPについて、テスト参加先の事務が円滑に行われることならびにテスト参加先、決済システムおよび日本銀行のシステムが安定的に稼動することを確認します。具体的には、次の事務量集中日を想定する方向で検討しています。</p>

段 階	概 要						
	<p data-bbox="622 268 1375 296">&lt;市場取引に関する試験において想定する事務量の集中日&gt;</p> <table border="1" data-bbox="622 312 1921 475"> <tr> <td data-bbox="622 312 1070 363">国債振替決済および国債DVP</td> <td data-bbox="1070 312 1921 363">2015年3月20日（国債元利払の集中日）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="622 363 1070 414">大口内国為替取引</td> <td data-bbox="1070 363 1921 414">2015年3月31日（期末日）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="622 414 1070 475">外国為替円決済</td> <td data-bbox="1070 414 1921 475">2015年5月7日（ゴールデンウィーク後の最初の営業日）</td> </tr> </table> <p data-bbox="488 531 987 560"><b>②日本銀行との取引に関する追加試験</b></p> <p data-bbox="510 603 1998 730">①と並行して、フェーズ1のテストを補完する目的で、日銀ネット利用先と日本銀行との間で行う各種の取引・決済に関する事務を追加的に確認・習熟するテスト（フェーズ1のテストが不調に終わった先が参加する追加テストを含みます。）を実施します。</p>	国債振替決済および国債DVP	2015年3月20日（国債元利払の集中日）	大口内国為替取引	2015年3月31日（期末日）	外国為替円決済	2015年5月7日（ゴールデンウィーク後の最初の営業日）
国債振替決済および国債DVP	2015年3月20日（国債元利払の集中日）						
大口内国為替取引	2015年3月31日（期末日）						
外国為替円決済	2015年5月7日（ゴールデンウィーク後の最初の営業日）						

(注) テストの性質上、通常日を大きく上まわる件数、金額を入力することは避けてください。この点について、日本銀行は、テスト全体を円滑に実施する観点から、フリーアクセス時間帯に入力する取引・決済の件数等について、一定の制約を設ける可能性があります（こうした制約を設ける場合には、テスト実施手順書の中でお示しします。）。

## 2. RTの回数・日程

- 次表のとおり、RTは、フェーズ1を3回、フェーズ2を4回実施する方向で検討しています。

(図表2) テストの実施回数・実施予定日

段 階		実施予定日	予備日
フェーズ1	第1回(1日目)	2015年5月10日(日)	2015年6月28日(日)
	第2回(2日目)	2015年5月31日(日)	
	第3回(3日目)	2015年6月21日(日)	
フェーズ2	第1回(1日目)	2015年7月12日(日)	2015年8月23日(日) 2015年9月13日(日)
	第2回(2日目)	2015年7月26日(日)	
	第3回(3日目)	2015年8月16日(日)	
	第4回(4日目)	2015年8月30日(日)	

(留意点) テストの実施回数および実施予定日は、今後の検討状況によって変更する可能性があります。

### 3. RTのテスト内容

○ RTでは、新日銀ネットを利用して行う事務の種類に応じて、次のようなテストを実施する予定です。

(図表3) 事務種類別のテスト実施予定 (具体的なテスト内容については、(別表) をご参照ください。)

《表の見方》

表 記	内 容
● : シナリオあり	テスト参加先が、日本銀行、短取研、日証協、全銀協または全銀ネットから示されるシナリオに基づき、特定の取引・決済 (市場取引に関する試験では、特定の日に行われた取引・決済) を行うテスト。
○、◇ : シナリオなし	テスト参加先が任意の取引・決済を行うテスト (ただし、テストを実施するにあたっての前提や制約事項については日本銀行からお示します。)。フリーアクセス時間帯に実施するテスト (◇) とそれ以外のテスト (○) があります。
囲み数字 (①、②等)	連続する日を用いて実施するテストの実施日の順。
カッコ囲み ((○) 等)	テストが不調に終わった参加先が追加的に実施するテスト (原則として実施しません。)

	事務の種類	テスト実施予定							
		フェーズ1			フェーズ2				
		1	2	3	1	2	3	4	
1. 当座勘定	(1-1) 当座勘定の振替依頼、逆引通知 (1-2) 為替決済 (1-3) 現金の払戻請求 (1-4) 国庫金受入金の払込等のための支払依頼 (1-5) 所要準備額の報告	◇	◇	◇	●	●	●	●	
		●	●	●	○	○	○	○	
		●	●	●	○	○	○	○	
		●	●	●	○	○	○	○	

	事務の種類	テスト実施予定						
		フェーズ1			フェーズ2			
		1	2	3	1	2	3	4
2. 戸田分館における現金の入金・払戻請求	(2-1) 戸田分館における現金の入金・払戻請求	●		(●)				
3. 当座勘定 (同時決済口)	(3-1) 当座勘定 (同時決済口) の振替依頼	◇	◇	◇	●	●	●	●
	(3-2) 大口内国為替取引にかかる当座勘定 (同時決済口) の振替依頼 <sup>(注1)</sup>	◇	◇		●		●	●
	(3-3) 自己勘定間振替、待機順序変更	◇	◇	◇	○	○	○	○
4. 外国為替円決済	(4-1) 外国為替円決済の支払指図	◇	◇	◇	●	●	●	●
5. 振替社債等資金 同時受渡 (振替社債等DVP)	(5-1) 当座勘定の振替による払込依頼	◇	◇	◇	●	●	●	●
	(5-2) 当座勘定 (同時決済口) の振替による払込依頼	◇	◇	◇	●	●	●	●
6. 国債系オペ	(6-1) 国債系オペのスタート・エンド決済	●	●	●				
	(6-2) 国債系オペの入札	●	●		●			
	(6-3) 国債買現先オペの入札、スタート決済	●	●					
	(6-4) 国債買現先オペにかかる売渡国債の差替	●	●	●				
7. 共通担保資金供給 オペ	(7-1) 共通担保資金供給オペの入札、 スタート・エンド決済	①	② ①	②	●			
8. 相対型電子貸付 (補完貸付)	(8-1) 借入の返済	●						
	(8-2) 借入の申込・実行・返済	①	② (①)	(②)				
		(8-1) が不調に終わったテスト参加先を対象に、追加的にテスト (テスト内容は(8-2)に準じる) を実施することがあります。						

	事務の種類	テスト実施予定						
		フェーズ1			フェーズ2			
		1	2	3	1	2	3	4
9. 担保	(9-1)担保（国債、振替社債等）の差入・受戻 (9-2)担保（手形、証書貸付債権）の差入・受戻  (9-3)期日担保返戻、振替社債等の定時償還に伴う担保価額の減額 (9-4)時価変更等に伴う担保価額の増減	○ ①  ●	○ ② ①  ①	○  ②  ②	○   ○	○  ○  ①	○  ○  ②	○   ○
10. 国債の入札・募集取扱	(10-1)国債の入札・募集取扱	●	●	●				
11. 国債の発行払込	(11-1)国債の発行払込		①	②		(①)	(②)	
12. 国債振替決済	(12-1)国債の口座振替 （国債の元利分離・統合<※>を含む） (12-2)国債の元利金配分 (12-3)個人向け国債の中途換金	◇ ○※ ① ①	◇ ○※ ② ②	◇ ○※ ③ ③	● ○※ ① (①)	● ○※ ② (②)	● ○※ ③ (③)	● ○※
13. 国債資金同時受渡（国債DVP）	(13-1)国債のDVP決済（同時担保受払を含む）	◇	◇	◇	●	●	●	●
14. 外国中央銀行等 <sup>(注2)</sup> にかかる資金・国債決済	(14-1)海外預り金の受入・払出 (14-2)国債のDVP決済（同時担保受払を含む） (14-3)国債の口座振替	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	
15. 金利スワップ担保	(実施しません)							

	事務の種類	テスト実施予定							
		フェーズ1			フェーズ2				
		1	2	3	1	2	3	4	
16. 業務運営	(16-1) 入出力グループの指定等	○	○	○	○	○	○	○	○
	(16-2) 当日処理終了の入力・取消	○	○	○	○	○	○	○	○
	(16-3) 受信コード種類の設定・解除	○	○	○	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)
	(16-4) 優先B I Cコード番号の設定・変更・解除	○	○	○	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)

(注1) 現時点の実施予定をお示ししています。最終的な実施予定については、2014年5月頃までに決定される予定です。

(注2) 日本銀行が預り金の受入または国債の保護預りを行う外国中央銀行等をいいます。以下同じです。

(留意点) テストの実施予定や実施方法（シナリオのあり・なし等）については、今後の検討状況によって変更する可能性があります。

#### 4. RTの参加対象先

- 日銀ネット利用先の皆様におかれては、次の「基本的な考え方」を踏まえたうえで、自行（社・庫）の業務内容やRT実施予定日における業務・システム面でのご都合を考慮し、参加されるテストの種類や回数をご検討ください。

##### （RT参加についての基本的な考え方）

- 全面稼働開始後に新日銀ネットを利用して行う業務の種類は多岐に亘ります。RTへの参加ニーズも日銀ネット利用先によって区々と考えられますが、日本銀行としての基本的な考え方をお示しすると、次のとおりです。
  - ◆ 全面稼働開始後の業務には、日銀当座預金や国債の振替、現金の払戻請求といった基本的な業務が含まれます。日銀ネット利用先は、RT（フェーズ1）に少なくとも1回は必ず参加して、事務習熟を図ってください。また、補完貸付や共通担保資金供給オペ等の日銀与信やその担保の管理、国債の発行払込といった緊要性の高い業務を行う日銀ネット利用先は、一連の事務を習熟するために必要なRTにすべて参加してください。
  - ◆ 全面稼働開始後の業務には、短期金融市場、証券市場および外国為替市場で行われる取引の資金・国債決済に利用する業務（日銀当座預金の振替、国債・振替社債等のDVP、外国為替円決済など）や、全国銀行内国為替制度における大口内国為替取引に関する業務が含まれます。これらの市場取引の参加者または全国銀行内国為替制度の参加者である日銀ネット利用先は、短取研、日証協、全銀協および全銀ネットが企画するRTに必ず参加し、新しい市場慣行等に沿って、1日の取引・決済が円滑に行われることを確認してください。

- 日銀ネットの利用業務別に、RTへの参加をご判断いただく際の考え方をお示しすると、次表のとおりです。

(図表4) RT参加についての考え方(日銀ネットの利用業務別)

	日銀ネットの利用業務	左記業務についてRTへの参加を判断する際の考え方 (上段: フェーズ1、下段: フェーズ2)
1. 当座勘定	当座勘定取引	フェーズ1に少なくとも1回は必ずご参加ください。 ----- 短期金融市場取引の参加者は、フェーズ2に必ずご参加ください。
2. 戸田分館における現金の入金・払戻請求	現金受払関係事務(戸田分館)	戸田分館利用先は、原則としてフェーズ1の1日目にご参加ください。 ----- (フェーズ2は実施しません。)
3. 当座勘定(同時決済口)	当座勘定(同時決済口)取引関係事務	短期金融市場取引の参加者は、原則としてフェーズ1に参加し、機能の確認を行ってください。 ----- 短期金融市場取引の参加者および全国銀行内国為替制度の参加者は、フェーズ2に必ずご参加ください。
4. 外国為替円決済	外国為替円決済制度関係事務	外国為替市場取引の参加者は、原則としてフェーズ1に参加し、機能の確認を行ってください。 ----- 外国為替市場取引の参加者は、フェーズ2に必ずご参加ください。
5. 振替社債等資金同時受渡(振替社債等DVP)	振替社債等資金同時受渡関係事務	短期金融市場取引(短期社債)または証券市場取引(一般債)の参加者は、原則としてフェーズ1に参加し、機能の確認を行ってください。

	日銀ネットの利用業務	左記業務についてR Tへの参加を判断する際の考え方 (上段：フェーズ1、下段：フェーズ2)
		短期金融市場取引（短期社債）または証券市場取引（一般債）の参加者は、フェーズ2に必ずご参加ください。
6. 国債系オペ	金融調節等入札連絡事務 国債売買等関係事務	国債系オペの対象先およびその決済代行先は、フェーズ1の1日目または2日目に、少なくとも1回は必ずご参加ください。 ----- 希望先は、フェーズ2にも任意でご参加いただけます。
7. 共通担保資金供給オペ	金融調節等入札連絡事務 入札型電子貸付（共通担保資金供給オペレーション）関係事務	共通担保資金供給オペ（全店貸付）の対象先 <sup>(注)</sup> は、フェーズ1に任意でご参加ください。 (注) 成長基盤強化支援資金供給および貸出増加支援資金供給の対象先は、すべて共通担保資金供給オペの対象先です。 連続する任意の2日間にご参加いただくことにより、オペのオフアークからスタート決済およびエンド決済までの一連の事務を行うことができます。 ----- 希望先は、フェーズ2にも任意でご参加いただけます。
8. 相対型電子貸付 (補完貸付)	相対型電子貸付関係事務	補完貸付制度の対象先は、フェーズ1の1日目に必ずご参加いただき、借入の返済にかかる事務を確認してください。 そのうえで、希望先は、1日目および2日目に借入の申込・実行・返済にかかる一連の事務のテストに任意でご参加いただけます。 ----- (フェーズ2は実施しません。)

	日銀ネットの利用業務	左記業務についてR Tへの参加を判断する際の考え方 (上段：フェーズ1、下段：フェーズ2)
9. 担保	担保関係事務	<p>担保差入先および国債決済代行先<sup>(注)</sup>は、フェーズ1に少なくとも1回は必ずご参加ください。</p> <p>(注) 担保差入先は、振込国債の担保差入を国債決済代行先に委託している場合には、国債決済代行先とともにテストにご参加ください。</p> <p>また、フェーズ1の1日目には、期日担保返戻・振替社債等の定時償還に伴う担保価額の減額、2日目および3日目には、それぞれ担保の時価変更等を行った旨の通知および時価変更等に伴う担保価額の増減を行います。担保差入先のうち、新日銀ネットにおいて自身が属する金融機関等の担保余裕額等を一元的に管理する店舗(担保出力指定店舗)は、全面稼働開始後の新しい仕組みの下で、担保余裕額の管理を適切に行えるようにするため、原則として、フェーズ1のすべてのテストにご参加ください。</p> <hr/> <p>フェーズ2において日本銀行による与信やその担保の取引を行う場合には、必ずご参加ください。</p>
10. 国債の入札・募集取扱	国債発行関係事務	<p>左記の業務をコンピュータ接続により行う先は、フェーズ1に少なくとも1回は必ずご参加ください。</p> <hr/> <p>(フェーズ2は実施しません。)</p>
11. 国債の発行払込	国債発行関係事務	<p>払込者<sup>(注)</sup>は、原則としてフェーズ1の2日目および3日目にご参加ください。</p> <hr/> <p>(注) 払込者は、代金払込方法として代行払込を指定する場合には、代行払</p>

	日銀ネットの利用業務	左記業務についてR Tへの参加を判断する際の考え方 (上段：フェーズ1、下段：フェーズ2)
		<p>込先とともにテストにご参加ください。</p> <p>-----</p> <p>(フェーズ2は原則として実施しません。)</p>
12. 国債振替決済	国債振替決済関係事務	<p><b>フェーズ1に少なくとも1回は必ずご参加ください。</b></p> <p>また、フェーズ1では、国債の元利金配分（利子配分先変更を含みます。）や個人向け国債の中途換金に関するテストを行います。これらの事務を取扱う先は、<b>該当するすべてのテストにご参加ください。</b></p> <p>-----</p> <p><b>証券市場取引の参加者は、フェーズ2に必ずご参加ください。</b></p> <p>また、フェーズ2では、国債の元利金配分（利子配分先変更を含みます。）に関するテストを再度行うことができます。</p>
13. 国債資金同時受渡 (国債DVP)	国債資金同時受渡および同時担保受払 関係事務	<p>証券市場取引の参加者は、原則としてフェーズ1に参加し、機能の確認を行ってください。</p> <p>-----</p> <p><b>証券市場取引の参加者は、フェーズ2に必ずご参加ください。</b></p>
14. 外国中央銀行等にかかる 資金・国債決済	当座勘定取引 国債振替決済関係事務 国債資金同時受渡および同時担保受払 関係事務	<p>外国中央銀行等にかかる資金・国債決済を行う先は、<b>フェーズ1に少なくとも1回は必ずご参加ください。</b></p> <p>-----</p> <p>外国中央銀行等にかかる資金・国債決済を頻繁に行う先は、<b>フェーズ2に必ずご参加ください。</b></p>
16. 業務運営	共通事務	<p><b>フェーズ1に少なくとも1回は必ずご参加ください。</b></p>

	日銀ネットの利用業務	左記業務についてR Tへの参加を判断する際の考え方 (上段：フェーズ1、下段：フェーズ2)
		フェーズ2では、入出力グループの指定や当日処理終了の入力・取消に関するテストを再度行うことができます。

(参 考) 決済システムによるR Tへの参加予定

- 主要な決済システムによるR Tへの参加予定は次表のとおりです。各決済システムの参加者である日銀ネット利用先は、運営主体から示される要領に従い、テストを実施してください。テストに参加する日銀ネット利用先の範囲や参加の回数、テストの実施方法の概要等については、2014年5月頃を目処に、各決済システムの運営主体からお知らせします。

	テスト回	フェーズ1			フェーズ2				留意点
		1	2	3	1	2	3	4	
全銀ネット		○	○		○		○	○	現時点の参加予定をお示ししています。最終的な参加予定については、2014年5月頃までに決定される予定です。
CLS			○			○		○	現時点の参加予定をお示ししています。最終的な参加予定については、2014年5月頃までに決定される予定です。
日本証券クリアリング機構 (JSCC)		○	○	○	○	○	○	○	テスト実施概要については2014年後半に決定される予定です。 (国債店頭取引) 清算参加者は、フェーズ1のいずれかのテスト回でJSCCとの間のDVP決済が問題なく行

	テスト回	フェーズ1			フェーズ2				留意点
		1	2	3	1	2	3	4	
									<p>われることを確認したうえで、フェーズ2の第1回から第3回に必ずご参加いただく予定です。</p> <p>(国債店頭取引以外)</p> <p>テストに参加する日銀ネット利用先の範囲や参加の回数、テストの実施方法の概要等については、2014年後半にお示しするテスト実施概要においてお知らせする予定です。</p>
ほふりクリアリング		○	○	○	○	○	○	○	
証券保管振替機構		○	○	○	○	○	○	○	<p>振替社債等DVPおよび日銀共通担保の受払に伴う社債等の振替を行う予定です(それ以外の振替は実施しません)。</p> <p>また、新日銀ネットのRTに併せて、決済照合システムの利用を可能とするか否かについては、2014年5月頃までに決定される予定です。</p>

(留意点) 各決済システムによるRTへの参加予定は、今後変更される可能性があります。

## 5. RTの実施環境

### (1) 共通事項

- 日本銀行は、次に掲げる基準日の稼動開始時点における現行日銀ネットの本番環境（利用金融機関等の情報、各種の口座残高等）を前提として、RTを円滑に運営するために必要な情報（口座残高の増額、テストで利用する架空銘柄の情報等）を追加したうえで、全面稼動開始時点の機能・システム仕様を搭載した新日銀ネット上に、フェーズ1、フェーズ2における初期環境を設けます。

	基準日
フェーズ1	2015年2月16日（月）
フェーズ2	2015年3月16日（月）

- 新日銀ネットにおいて、テストを実施する際に用いるシステム上の日付（システム運用日付）およびテスト環境の設定方法は、次表のとおりとする予定です。テスト参加先は、テストで使用するデータに設定する日付を、新日銀ネットのシステム運用日付とする必要があります。

(図表5) システム運用日付およびテスト環境の設定方法

テストフェーズ		システム運用日付	テスト環境の設定方法
フェーズ1	第1回（1日目）	2015年2月18日（水）	フェーズ1の初期環境を設定したうえで、連続する3営業日を想定してテストを行います。第1回、第2回のテスト終了時点の環境（取引データ、口座残高等）は、次回のテスト開始時点の環境として引き継がれます。
	第2回（2日目）	2015年2月19日（木）	
	第3回（3日目）	2015年2月20日（金）	

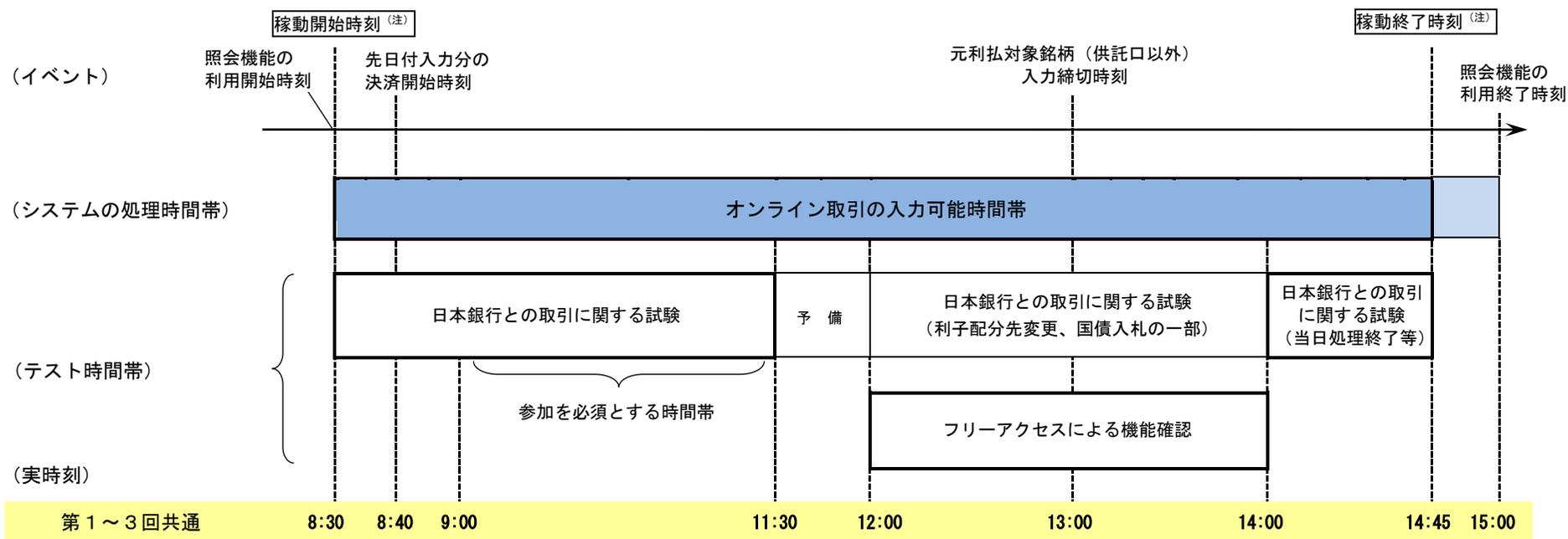
テストフェーズ		システム運用日付	テスト環境の設定方法
フェーズ2	第1回（1日目）	2015年3月18日（水）	フェーズ2の初期環境を設定したうえで、連続する3営業日を想定してテストを行います。第1回、第2回のテスト終了時点の環境（取引データ、口座残高等）は、次回のテスト開始時点の環境として引き継がれます。
	第2回（2日目）	2015年3月19日（木）	
	第3回（3日目）	2015年3月20日（金）	
	第4回（4日目）	2015年3月18日（水）	フェーズ2の初期環境を設定してテストを行います。

- フェーズ2の市場取引に関する試験では、取引・決済の件数（事務量）が集中する日を想定したシナリオを設ける方向で検討が進められています（図表1をご参照ください）。このシナリオに基づくテストは、（図表5）に掲げるシステム運用日付を用いて実施しますので、シナリオ上で想定する日付と新日銀ネットのシステム運用日付は異なることがあります。
- テスト実施日における新日銀ネットの運行スケジュールは、現時点では、次の図のとおりとする方向で検討しています。テスト参加先、決済システムおよび日本銀行において、翌営業日の業務を開始するための準備時間を確保する観点から、テスト上の稼動終了時刻は、全面稼動開始後における実際の稼動終了時刻よりも前に設定します。従って、テストにおいては、新日銀ネットを利用した1日の取引・決済のスケジュールを一部短縮して実施することになります。

（留意点）RTフェーズ1およびフェーズ2における新日銀ネットの運行スケジュールは、今後の検討状況によって変更する可能性があります。また、RTにおける各テスト項目の取引・決済のスケジュールは、テスト上のものであり、全面稼動開始後の運行スケジュールとは異なり得ます。

(図表6) フェーズ毎の主要な運行スケジュール

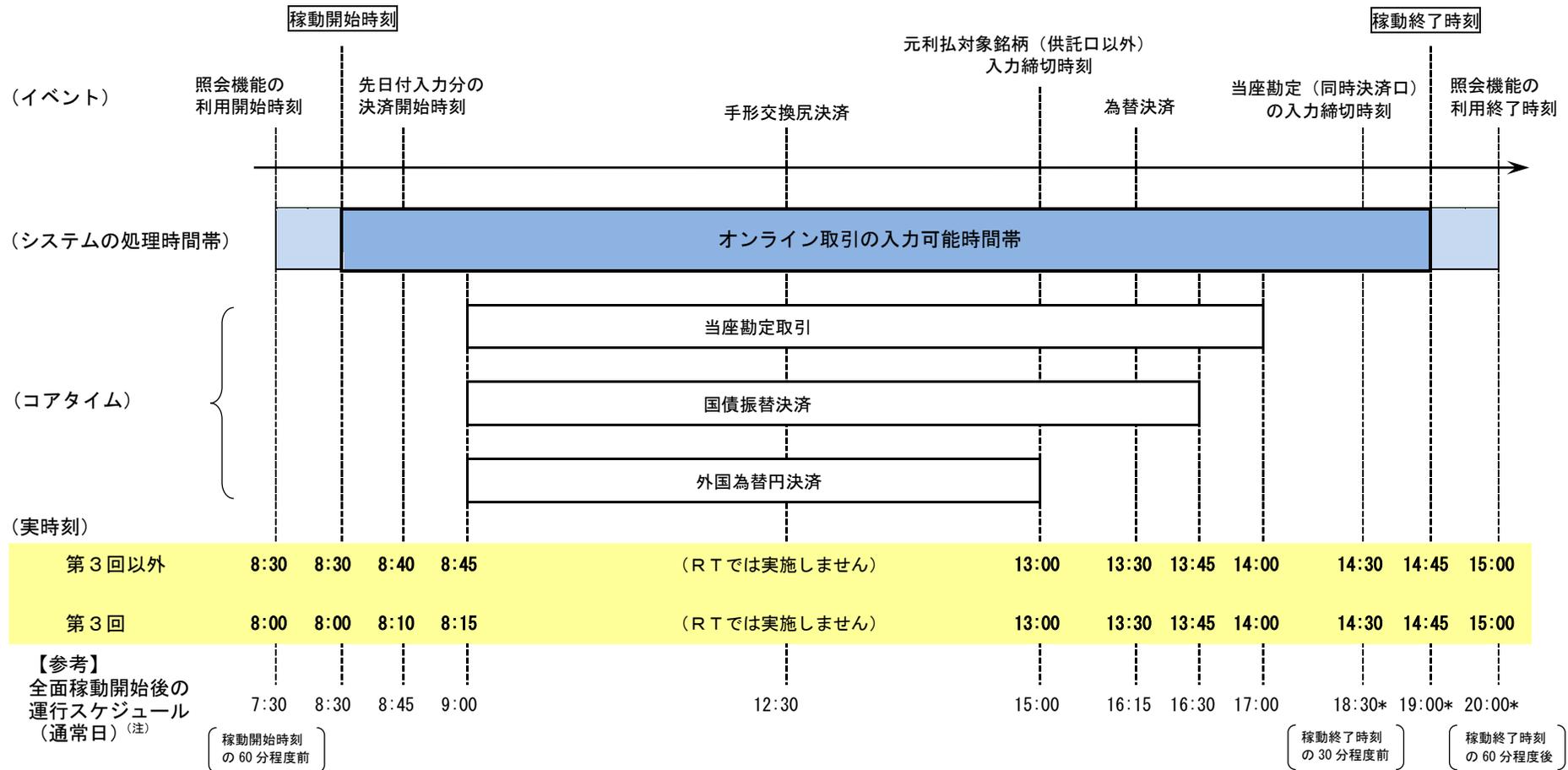
①RTフェーズ1 (日本銀行との取引に関する試験の1日の流れについては、別紙1をご参照ください。)



- テスト参加先は、9：00 から 11：30 までの時間帯には必ずテストに参加してください。この時間帯には、すべてのテスト参加先において、日銀ネットを通じた当日取引を可能とする事務処理態勢が確保されていることを前提にテストを実施します。
- 当初予定していたテスト項目をすべて実施した先については、11：30 以降に「当日処理終了」を入力したうえで、当日の日銀ネットの利用を終了し、お帰りいただいて差し支えありません。

(注) 日本銀行が、「新日銀ネットの稼動時間について」(2013年7月)でお示した「稼動開始時刻」および「稼動終了時刻」を指します(フェーズ2についても同様です)。

## ②RTフェーズ2



- テスト参加先は、コアタイム中には必ずテストに参加してください。コアタイム中には、すべてのテスト参加先において、日銀ネットを通じた当日取引を可能とする事務処理態勢が確保されていることを前提にテストを実施します。
- 当初予定していたテスト項目をすべて実施した先については、コアタイム終了時刻以降に「当日処理終了」を入力したうえで、当日の日銀ネットの利用を終了し、お帰りいただいて差し支えありません。ただし、短取研、日証協、全銀協および全銀ネットが企画するテストにおいて、コアタイム以外の時間帯を想定したシナリオが示された場合には、これに従ってください。

(注) 現時点において、日本銀行が想定している全面稼働開始後の運行スケジュールをお示ししています(今後の検討状況によって変更される可能性があります。)。また、夜間の稼働時間を拡大する場合の拡大幅やその実施時期については、現在、日銀ネットの利用金融機関等と協議中です。夜間の稼働時間を拡大する場合には、\*を付した時刻は変更される可能性があります。

## (2) 業務面の環境

### イ、利用金融機関等情報の初期設定

- 日本銀行は、現行日銀ネットの本番環境に設定されている利用金融機関等の情報を前提として、2014年5月頃を目処に実施するRTへの参加希望調査（後述6.をご参照ください。）において利用金融機関等から申し出を受けた追加の情報を加えて、新日銀ネット上に利用金融機関等の情報を設定します。

—— 新日銀ネットに新たに設定する利用金融機関等の情報については、（別添）をご参照ください。利用金融機関等におかれては、新日銀ネットを利用して行う業務の内容を考慮して、RTへの参加希望調査の中でこれらの情報をご回答ください。

### ロ、口座残高の初期環境

- 日本銀行は、フェーズ1の1日目のテスト開始時には2015年2月16日（月）、フェーズ2の1日目および4日目のテスト開始時には同年3月16日（月）をそれぞれ基準日として、各テスト参加先の当座勘定、共通担保、振込国債の口座残高を設定します。

—— 基準日の業務開始時点以降に現行日銀ネットで処理された取引・決済については、原則として、口座残高に反映されません。例外的に口座残高に反映される取引・決済の種類（新日銀ネットにおいて、データが自動的に作成されるものです。）については、テストの実施手順書の中でお示しします。

- これに加え、システム運用日付における口座残高の多寡によらず、すべてのテスト参加先が円滑にテストを実施できるようにするため、各テスト参加先の口座残高を、次のとおり増額します。

(図表7) 口座残高の増額内容

	増額の対象	増額の内容
当座勘定	テスト参加先（店舗）の当座勘定残高	10兆円を増額

	増額の対象	増額の内容
共通担保	テスト参加先の属する金融機関等（担保差入金融機関等）が自身の種別名なしの種別の自己口Ⅰおよび国債決済代行者の種別名なしの種別の預り口Ⅰから日本銀行に担保として差入れている振込国債の残高	各銘柄 1,000 億円を増額
振込国債	テスト参加先の属する金融機関等（振込参加者）の種別名なしの種別の自己口Ⅰ、預り口Ⅰに記録されている振込国債の残高	各銘柄 1,000 億円を増額

- また、システム運用日付において振込国債および振替社債等の残高を有していないテスト参加先も円滑にテストを実施できるようにするため、次の表のとおり、すべてのテスト参加先について、日本銀行および証券保管振替機構はテスト環境上に架空の銘柄を設定します。その際、振込国債については、テスト環境上に設定されている種別・口座区分に、各銘柄 1,000 億円を設定します。

（図表 8） 架空銘柄の設定内容

	テストの種類		架空銘柄の設定内容
振込国債	国債系オペ		利付国債、国庫短期証券（合わせて 9 銘柄） 種別名なしの種別の自己口Ⅰ（オペ対象先、一部の決済代行者）および預り口Ⅰ（一部の決済代行者）に記録
	担保	担保（国債）の差入・受戻	利付国債、国庫短期証券（合わせて 10 銘柄） 種別名なしの種別の自己口Ⅰ（担保差入金融機関等）および預り口Ⅰ（国債決済代行者）に記録
		期日担保返戻	国庫短期証券（1 銘柄） 受戻期日（フェーズ 1 の 1 日目）に、担保差入金融機関等の種別名なしの種別の自己口Ⅰまたは国債決済代行者の種別名なしの種別の預り口Ⅰにそれぞれ返戻される予定の振込国債を、日本銀行の種別名なしの種別の自己口Ⅱに記録

		テストの種類	架空銘柄の設定内容
振込国債	国債の入札・募集取扱		価格競争および特別参加者第Ⅰ非競争入札：利付国債（1銘柄） 価格競争、非競争および特別参加者第Ⅰ非競争入札：国庫短期証券（1銘柄） 特別参加者第Ⅱ非競争入札：利付国債（1銘柄） 個人向け国債募集取扱発行：個人向け国債（1銘柄）
	国債の発行払込		入札発行：利付国債および国庫短期証券（合わせて2銘柄） 募集取扱発行：利付国債（1銘柄） 個人向け国債募集取扱発行：個人向け国債（1銘柄）
	国債振替決済	国債の口座振替（国債の元利分離・統合を含む）	利付国債、国庫短期証券（合わせて10銘柄） 種別名なしの種別の自己口Ⅰに記録
		国債の元利金配分	利付国債（1銘柄） 種別名なしの種別、信託口1～5、特別課税口、分別管理口、供託口、非居住者等口の全口座区分のうち、当該参加者口座に設定されているものに記録
		個人向け国債の中途換金	個人向け国債（1銘柄） 種別名なしの種別の預り口Ⅲに記録
	国債資金同時受渡（国債DVP）		国債の口座振替（国債の元利分離・統合を含む）と同銘柄を使用
外国中央銀行等にかかる資金・国債決済	国債のDVP決済、国債の口座振替	利付国債、国庫短期証券（合わせて11銘柄） 種別名なしの種別の自己口Ⅰおよび預り口Ⅰに記録	
振替社債等	振替社債等資金同時受渡（振替社債等DVP）		新日銀ネットにおけるテストを円滑に実施できるよう、証券保管振替機構のテスト環境上に架空の銘柄およびその残高を設定します（具体的な設定内容については、証券保管振替機構において検討中です。）。
	担保	担保（振替社債等）の差入・受戻	
		期日担保返戻	

(留意点) 口座残高の増額内容および架空銘柄の設定内容は、今後の検討状況によって変更する可能性があります。

- なお、R Tでは、「所得税法等の一部を改正する法律」(平成 25 年法律第 5 号)による債券税制の見直し(2016 年 1 月 1 日施行)前の制度を前提として振込国債および振替社債等の口座残高を設定したうえで、テストを行います。

#### ハ、入出力グループの事前設定

- 新日銀ネットにおいて、日銀ネット利用先が日銀ネット端末を利用して電文の送受信(受信電文の確認を含みます。)を行うためには、日銀ネット利用先ご自身の端末操作により「入出力グループ」を設定しておく必要があります。R Tの実施にあたっては、事前に、テスト参加先が日銀ネット端末を利用して「入出力グループ」を設定し、各入出力グループと端末認証装置、送信権限者およびオペレータとの紐付けを行う期間を設けます<sup>(注)</sup>。テスト参加先は、必ず、この期間中に「入出力グループ」の設定を行ったうえで、R Tに参加してください。

(注) テスト参加先が設定した「入出力グループ」は、すべてのテスト期間中を通じて引継がれます。なお、テスト実施日においては、原則として入出力グループの登録・変更・削除は実施しません(仮に、実施する場合には、電文の送受信に影響がないよう細心の注意が必要となります。)

- 新日銀ネットの全面稼働開始に伴って、「入出力グループ」により電文の送受信を管理する業務処理の種類が拡大します。このため、新日銀ネットの第 1 段階稼働対象業務の利用先を含め、すべての日銀ネット利用先において「入出力グループ」の設定が必要となります。

### (3) システム面の環境

#### イ、日銀ネット端末

- 新日銀ネットにおいて、利用先が日銀ネット端末を利用するためには、必ず、利用先ご自身で①、②の準備作業をしていただく必要があります。テスト参加先は、これらの準備を終えたうえで、R Tに参加してください。

##### ① 端末装置のオペレーション・システム（OS）の確認

新日銀ネットを利用するシステム環境を設定するためには、日銀ネット端末装置とするパソコンのOSがマイクロソフト社製のWindows 7またはWindows Vistaである必要があります。すべての日銀ネット利用先は、必ず、ご自身でパソコンのOSの種類を確認し、必要に応じて、Windows 7またはWindows Vistaを搭載したパソコンをご準備ください。

##### ② 新日銀ネットを利用するシステム環境の設定

第1段階稼働対象業務を含め、最初に新日銀ネットの業務処理を利用する際には、日銀ネット端末装置において、新日銀ネットを利用するシステム環境を設定する必要があります。システム環境の設定は、2014年夏頃に配付するセットアップCDに従って実施します。すべての日銀ネット利用先は、必ず、ご自身で新日銀ネットを利用するシステム環境を設定してください。

#### ロ、コンピュータ接続

- コンピュータ接続先は、コンピュータ接続を利用してR Tに参加することができます。コンピュータ接続を利用してR Tに参加するための要件や、参加にあたっての留意事項については、別紙2をご参照ください。

#### ハ、ファイルアップロード・ダウンロード機能

- ファイルアップロード・ダウンロード機能の利用先は、同機能を利用してR Tに参加することができます。同機能を利用してR Tに参加するに際しては、R Tに先立って実施されるオンライン接続試験に参加すること等を通じて、自行（社・庫）システムにおいて作成する電文のフォーマットやデータの設定内容が正しいことを確認してください。なお、追加的に、オンライン接続試験への参加を希望される場合には、2014年3月末までに日本銀行システム情報局にご連絡ください。

## 6. RTに関する情報開示等のスケジュール（全体の流れについては、別紙3をご参照ください。）

○ 今後、日本銀行では、RTの実施に必要なシステム環境の準備や、本資料の（別表）において日本銀行がお示しすることとしているテストの実施手順書の作成を行います。また、短取研、日証協、全銀協および全銀ネットでは、市場参加者等と連携して、フェーズ2で実施するテストの内容の検討やシナリオの作成が行われます。日銀ネット利用先の皆様におかれては、自行（社・庫）システムの開発や事務処理態勢の整備とともに、RTへの参加に向けた準備を進めていただきますようお願いいたします。

○ RTの実施に向けた情報の開示スケジュール等は、次のとおりです。

### ① RTへの参加希望調査（実施予定時期：2014年5月頃＜回答期限：6月頃＞）

日本銀行から日銀ネット利用金融機関等に対し、参加を希望するテストの種類や回数をお伺いするものです<sup>(注1)</sup>。併せて、新日銀ネットを利用して業務を行うために、追加的に必要となる金融機関等の情報をお伺いします。このうち、利用金融機関等の皆様から申し出ていただく情報の種類や、これらの情報が必要となる背景については、（別添）をご参照ください。

なお、テスト参加先がフリーアクセスによる取引・決済の相手方を円滑に把握できるよう、日銀ネット利用先のRTへの参加予定（参加するテストの種類、回数）については、テスト参加先に開示する方向で検討しています<sup>(注2)</sup>。

（注1）RTでは、「テスト用端末認証装置」および「テスト用権限者カード」を使用します。これらの追加を希望する日銀ネット利用先は、RTへの参加希望調査において、日本銀行に申し出てください。

（注2）日本銀行では、フリーアクセスにおける取引・決済の相手方や入力内容の調整は行いません。

### ② テスト実施手順書（開示時期：次の（a）は2015年2～3月頃、（b）は2015年4～5月頃）

日本銀行からテスト参加先に対し、テストの実施手順書をお示しします。実施手順書は、（a）RTを実施する環境全般や留意事項、主にフェーズ1で実施する日銀ネット利用先と日本銀行との間の取引・決済に関するテストの実施手順をまとめた「共通・日銀取引編」、（b）主にフェーズ2で実施する市場取引に関するテストのシナリオをまとめた「市場取引編＜仮称＞」の2つに分けてお示しします。このうち、（a）は日本銀行が、（b）は短取研、日証協、全銀協および全銀ネットが主体となって取りまとめます。

○ 各回のテスト実施直後に、日銀ネット利用先と日本銀行との間の取引・決済に関するテストの実施結果（未実施のテスト項目やトラ

ブルの有無など) について、テスト参加先から日本銀行にご報告いただくとともに、その結果については、必要に応じて、日本銀行からテスト参加先にフィードバックする予定です。詳細については、実施手順書においてお示しします。

—— 市場取引に関するテストの実施結果については、別途、短取研、日証協、全銀協および全銀ネットにおいて取りまとめを行う予定です。その結果については、必要に応じて、テスト参加先にフィードバックされる予定です。

以 上

(別表)

## 事務種類別のテスト実施内容（概要）

- 本文3. でお示しした事務の種類別に、R Tにおいて実施するテストの内容は、次のとおりです。それぞれの事務について、(1) 現行日銀ネットからの主な変更点を整理したうえで、(2) 新日銀ネットを利用して行うテストの実施内容および(3) R Tに参加することにより確認できる画面・帳票の種類をお示ししています。

全面稼動開始後における新日銀ネットの機能の詳細については、日本銀行ホームページの「業務上の事務連絡」に掲載している「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」（2013年9月）を参照してください。

### 1. 当座勘定

#### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼動開始に伴い、当座勘定の振替依頼に関する電文（「振替依頼」、「振替依頼・記事付」、「振替依頼・付記電文付」）が「振替依頼」に一本化されます。

#### (2) テストの実施内容（概要）

R Tでは、①フェーズ1で基本的な機能や入力項目の設定方法を確認したうえで、②フェーズ2において、現行日銀ネット上で実際に決済された短期金融市場取引のデータを用いて、当座勘定における1日の取引・決済が円滑に行われることを実践的に確認します。なお、フェーズ2で用いるデータの種類や範囲については、別途お知らせします。

また、フェーズ1において、日本銀行本支店等に対する現金の払戻請求、国庫金受入金の払込等のための支払依頼、所要準備額の報告にかかる機能を確認します。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(1-1) 当座勘定の振替依頼、 逆引通知	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先から他のテスト参加先への当座勘定の振替、同一金融機関等の店舗間での当座勘定の逆引振替を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新しい「振替依頼」の各項目の設定方法を確認してください。</li> <li>✓ 全面稼働開始に伴って、当座勘定（同時担保受払時決済口）および同時受払担保が廃止され、それぞれ当座勘定および共通担保に一本化されます（13. 国債資金同時受渡を参照してください。）。また、共通担保の担保余裕額が「担保差入金融機関等の法人単位」で算出されるようになります（9. 担保を参照してください。）。テスト参加先は、当座勘定残高および担保余裕額の管理方法を確認してください。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <b>フリーアクセス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、「振替依頼」、「逆引通知」の機能を確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「振替依頼」を行う場合には、予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。</li> </ul>
		<p>【フェーズ2】 <b>シナリオあり（短期金融市場）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、全面稼働開始後の市場慣行に沿って、当座勘定における1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、短取研が作成するシナリオに沿って行います。なお、当該シナリオとは別に、決済システムや他のテスト参加先との間で、当座勘定の振替を行うこともできます（予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。また、他のテストメニューの実施に支障がないように注意してください。）。</li> </ul>
(1-2) 為替決済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・為替決済を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施しません。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<p>【フェーズ2】 <b>シナリオあり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本銀行は、所定の時刻に、当座勘定において為替決済を実施します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 為替決済の金額は、各想定日に現行日銀ネットにおいて実行した為替決済の金額とし、日本銀行が設定します。</li> <li>✓ 為替決済の当事者となる利用先がテストに参加していない場合でも、日本銀行は為替決済を実施します。</li> </ul>
(1-3) 現金の払戻請求	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本銀行本支店等（戸田分館を除きます。）における現金の払戻請求を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <b>シナリオあり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、「払戻請求（日本銀行本支店等）」の機能を確認します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実際の現金払戻および当座勘定の引落は行われません。</li> </ul> <p>【フェーズ2】 <b>シナリオなし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、必要に応じて、「払戻請求（日本銀行本支店等）」の機能を確認します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実際の現金払戻および当座勘定の引落は行われません。</li> </ul>
(1-4) 国庫金受入金の払込等のための支払依頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>国庫金受入金の払込等にかかる当座勘定の引落を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <b>シナリオあり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、「支払依頼」の機能を確認します。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<b>【フェーズ2】シナリオなし</b> ・テスト参加先は、必要に応じて、「支払依頼」の機能を確認します。
(1-5) 所要準備額の報告	・所要準備額の報告を行います。	<b>【フェーズ1】シナリオあり</b> ・テスト参加先は、「所要準備額報告」の機能を確認します。 （留意事項） ✓ このテストは、便宜的に、日本銀行に報告する所要準備額を一定額として実施します。
		<b>【フェーズ2】シナリオなし</b> ・テスト参加先は、必要に応じて、「所要準備額報告」の機能を確認します。

### （3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料2-2に記載されているすべての画面・帳票（次に掲げるものを除きます。）を確認することができます<sup>（注）</sup>。

（注）画面・帳票の中には、テスト実施時に処理の条件（残高不足の発生等）が満たされず、確認できないものもあります。以下、本資料において同じです。

出力帳票

<テストのシナリオ上、対応する処理が行われないもの>

- ・当座勘定入金・引落予告（手形交換戻決済）
- ・当座勘定引落通知（手形交換戻決済）
- ・当座勘定入金通知（手形交換戻決済）
- ・当座勘定引落資金不足通知（手形交換戻決済）
- ・当座勘定入金・引落予告（手形交換戻決済）[取消・新規]
- ・当座勘定入金・引落予告（手形交換戻決済）[取消]
- ・当座勘定入金通知（手形交換戻決済取消）
- ・手形交換戻決済入金・引落取消処理済通知
- ・手形交換戻決済入金・引落未了通知
- ・手形交換戻決済未了通知
- ・手形交換戻決済入金・引落完了通知
- ・当座勘定振替済通知
- ・当座勘定引落通知
- ・当座勘定引落通知（払戻請求（日本銀行本支店等））
- ・当座勘定引落未了通知

<テストの実施環境上、出力が想定されないもの>

- ・当座勘定引落資金不足通知（為替決済）
- ・当座勘定入金・引落予告（為替決済）[取消]
- ・当座勘定入金・引落予告（為替決済）[取消・新規]
- ・当座勘定入金通知（為替決済取消）
- ・為替決済入金・引落取消処理済通知
- ・為替決済入金・引落未了通知
- ・為替決済未了通知

## 2. 戸田分館における現金の入金・払戻請求

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼動開始に伴い、従来、銀行券の種類別に細分化されていた入金・払戻請求に関する電文が「入金・払戻請求（戸田分館）」に一本化されます。

### (2) テストの実施内容（概要）

R Tでは、フェーズ1の1日目において、新しい「入金・払戻請求（戸田分館）」の機能等を確認します。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(2-1) 戸田分館における 現金の入金・払戻請求	・戸田分館における現金の入金・払戻請求を行います。	<b>【フェーズ1】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span> ・テスト参加先は、「入金・払戻請求（戸田分館）」の機能および暗証番号の照会機能を確認します。 （留意事項） ✓ 実際の現金の入金・払戻および当座勘定の入金・引落は行われません。
		<b>【フェーズ2】</b> ・実施しません。

### (3) R Tにおいて確認できる新日銀ネットの機能

(2) のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出カイメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料5-2に記載されているすべての画面・帳票（次に掲げるものを除きます。）を確認することができます。

出力帳票

<テストのシナリオ上、対応する処理が行われないもの>

- ・当座勘定入金通知（戸田分館）
- ・当座勘定引落通知（戸田分館）
- ・当座勘定引落未了通知（戸田分館）

### 3. 当座勘定（同時決済口）

#### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴い、当座勘定（同時決済口）の振替依頼に関する電文（「振替依頼（同時決済口）」、「振替依頼・付記電文付（同時決済口）」）が「振替依頼（同時決済口）」に一本化されるほか、この電文の先日付入力（入力日の翌営業日を取引実行日として指定すること）が可能となります。また、希望する日銀ネット利用先は、大口内国為替取引にかかる当座勘定（同時決済口）の処理済通知を受信できるようになります。

#### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、①フェーズ1で基本的な機能や入力項目の設定方法を確認したうえで、②フェーズ2において、現行日銀ネット上で実際に決済された短期金融市場取引および大口内国為替取引のデータを用いて、当座勘定（同時決済口）における1日の取引・決済が円滑に行われることを実践的に確認します。なお、フェーズ2で用いるデータの種類や範囲については、別途お知らせします。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(3-1) 当座勘定（同時決済口）の振替依頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先から他のテスト参加先に対する当座勘定（同時決済口）の振替を行います。</li> </ul> （確認のポイント） <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新しい「振替依頼（同時決済口）」の各項目の設定方法を確認してください。</li> <li>✓ 全面稼働開始に伴って、振替社債等DVPの資金決済について、当座勘定（同時決済口）を利用できるようになります（5. 振替社債等資金同時受渡を参照してください）。テスト参加先は、振替社債等DVPの資金決済を含め、当</li> </ul>	<b>【フェーズ1】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">フリーアクセス</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、「振替依頼（同時決済口）」の機能を確認します。</li> </ul> （留意事項） <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「振替依頼（同時決済口）」を行う場合には、予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。</li> </ul>
		<b>【フェーズ2】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり（短期金融市場）</span> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、全面稼働開始後の市場慣行に沿って、当座勘定（同時決済口）における1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</li> </ul> （留意事項） <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、短取研が作成するシナリオに沿って行います。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
	座勘定（同時決済口）全体の残高管理方法を確認してください。	
(3-2) 大口内国為替取引にかかる当座勘定（同時決済口）の振替依頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>全銀ネットが入力する振替依頼・内国為替（同時決済口）に基づき、他のテスト参加先との間で、大口内国為替取引にかかる当座勘定（同時決済口）の機能を確認します。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <b>フリーアクセス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全銀ネットによる「振替依頼・内国為替（同時決済口）」の送信後、テスト参加先は、大口内為取引にかかる当座勘定（同時決済口）の機能を確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト実施方法の概要については、2014年5月頃を目処にお知らせします。</li> </ul> <p>【フェーズ2】 <b>シナリオあり（大口内国為替取引）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全銀ネットによる「振替依頼・内国為替（同時決済口）」の送信後、テスト参加先は、全面稼動開始後の関係規則に基づき、当座勘定（同時決済口）における1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、全銀ネットが作成するシナリオに沿って行います。</li> <li>✓ テスト実施方法の概要については、2014年5月頃を目処にお知らせします。</li> </ul>
(3-3) 自己勘定間振替、待機順序変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>当座勘定と当座勘定（同時決済口）の間の振替、待ち行列に待機中の振替依頼の待機順序変更を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <b>フリーアクセス</b></p> <p>【フェーズ2】 <b>シナリオなし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、(3-1)、(3-2)と併せ、「自己勘定間振替」、「待機順序変更」の機能を確認します。</li> <li>また、必要に応じて、照会データファイル取得機能の「受払明細」の機能を確認し、待ち行列に待機中の振替依頼の待機順序等を把握する方法を確認します。</li> </ul>

(3) RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

(2) のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料4-3に記載されているすべての画面・帳票を確認することができます。

#### 4. 外国為替円決済

##### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴い、外国為替円決済にかかる支払指図に ISO20022 メッセージが導入されます。また、決済口座を当座勘定（同時決済口）とする支払指図電文の先日付入力（入力日の翌営業日を取引実行日として指定すること）が可能となります。

##### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、①フェーズ1で基本的な機能や入力項目の設定方法を確認したうえで、②フェーズ2において、現行日銀ネット上で実際に決済された外国為替円決済のデータ（CLS決済については、CLS銀行が指定するデータ）を用いて、当座勘定および当座勘定（同時決済口）における1日の取引・決済が円滑に行われることを実践的に確認します。なお、フェーズ2で用いるデータの種類や範囲については、別途お知らせします。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(4-1) 外国為替円決済の 支払指図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先から他のテスト参加先に対する外国為替円決済の支払指図の送信を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新しい支払指図の各項目の設定方法のほか、必要に応じ、新しい支払指図に基づいて決済関係</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <b>フリーアクセス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、外国為替円決済にかかる支払指図（「CUSTOMER TRANSFER」、「BANK TRANSFER」、「CUSTOMER TRANSFER (QUEUE OFFSET)」または「BANK TRANSFER (QUEUE OFFSET)」）の機能を確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 支払指図を送信する場合には、予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
	<p>者を特定する方法やコルレス銀行に送信する SWIFT MT メッセージとの対応関係を確認してください。</p>	<p><b>【フェーズ2】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり（外国為替市場）</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、全面稼動開始後の関連規則に基づき、外国為替円決済にかかる1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、全銀協が作成するシナリオに沿って行います。</li> </ul>

（3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料6—3に記載されているすべての画面・帳票を確認することができます。

## 5. 振替社債等資金同時受渡（振替社債等DVP）

### （1）現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼動開始に伴い、振替社債等資金同時受渡（振替社債等DVP）の決済口座として、従来の当座勘定に加えて、新たに当座勘定（同時決済口）を利用できるようになります。

### （2）テストの実施内容（概要）

RTでは、①フェーズ1で基本的な機能を確認したうえで、②フェーズ2において、現行日銀ネット上で実際に決済された振替社債等DVPのデータを用いて、当座勘定および当座勘定（同時決済口）を利用した1日の取引・決済が円滑に行われることを実践的に確認します。なお、フェーズ2で用いるデータの種類や範囲については、別途お知らせします。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(5-1) 当座勘定の振替による払込依頼	・決済口座として当座勘定を用いる振替社債等DVPを行います。	<b>【フェーズ1】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">フリーアクセス</span> ・証券保管振替機構による「入金依頼（振替社債等）」の送信後、テスト参加先は、「払込依頼（振替社債等）」の機能を確認します。 （留意事項） ✓ テスト実施方法の概要については、2014年5月頃を目処にお知らせします。
		<b>【フェーズ2】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり（証券市場、短期金融市場）</span> ・証券保管振替機構による「入金依頼（振替社債等）」の送信後、テスト参加先は、全面稼動開始後の市場慣行に沿って、決済口座を当座勘定とする振替社債等DVPが円滑に行われることを確認します。 （留意事項） ✓ このテストは、日証協および短取研が作成するシナリオに沿って行います。 ✓ テスト実施方法の概要については、2014年5月頃を目処にお知らせします。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(5-2) 当座勘定（同時決済口）の振替による払込依頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決済口座として当座勘定（同時決済口）を用いる振替社債等DVPを行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、「払込依頼（振替社債等）（同時決済口）」の機能を確認してください。</li> <li>✓ テスト参加先は、振替社債等DVPの資金決済を含め、当座勘定（同時決済口）全体の残高管理方法を確認してください。</li> </ul>	<p><b>【フェーズ1】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">フリーアクセス</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・証券保管振替機構による「入金依頼（振替社債等）」の送信後、テスト参加先は、「払込依頼（振替社債等）（同時決済口）」の機能を確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト実施方法の概要については、2014年5月頃を目処にお知らせします。</li> </ul>
		<p><b>【フェーズ2】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり（証券市場、短期金融市場）</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・証券保管振替機構による「入金依頼（振替社債等）」の送信後、テスト参加先は、全面稼働開始後の市場慣行に沿って、決済口座を当座勘定（同時決済口）とする振替社債等DVPが円滑に行われることを確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日証協および短取研が作成するシナリオに沿って行います。</li> <li>✓ テスト実施方法の概要については、2014年5月頃を目処にお知らせします。</li> </ul>

### （3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料8-2に記載されているすべての画面・帳票を確認することができます。

## 6. 国債系オペ

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴い、国債系オペおよび国債補完供給のスタート・エンド決済、売渡国債の差替は、新しい国債DVPのメッセージフローを用いて実行します。

### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、フェーズ1の各テスト実施日に、①当日を取引実行日／売戻・買戻日とする国債系オペのスタート決済およびエンド決済、売渡国債の銘柄差替を行います。また、②当日を入札日とする国債買入オペおよび国庫短期証券買入オペのオファーから募入決定までの一連の事務、③当日を入札日・取引実行日とする国債買現先オペのオファーからスタート決済までの一連の事務をそれぞれ行います。

そのうえで、フェーズ2の1日目において、④当日を入札日とする国債買入オペおよび国庫短期証券買入オペのオファーから募入決定までの一連の事務を行います。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(6-1) 国債系オペのスタート・エンド決済	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日を取引実行日とする国債買入オペ、国庫短期証券買入オペ、国債売却オペおよび国債売現先オペのスタート決済を行います。</li> <li>当日を売戻・買戻日とする国債売現先オペおよび国債買現先オペのエンド決済を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先（オペ対象先または決済代行先）は、稼働開始直後に「国債資金同時受渡依頼受付案内」等を受信します。</li> <li>テスト参加者（オペ対象先または決済代行先）は「決済指示」を送信し、国債DVPによる決済を行います。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用して行います。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
	<p>(確認のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加者は、国債系オペのスタート・エンド決済に用いる国債DVPの「決済指示」の機能を確認してください。</li> </ul>	<p>【フェーズ2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施しません。</li> </ul>
(6-2) 国債系オペの入札	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日を入札日とする国債買入オペおよび国庫短期証券買入オペのオファーから募入決定までの一連の事務を行います。</li> </ul> <p>(確認のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 シナリオあり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（オペ対象先）は、午前 10 時 30 分頃に、国債買入オペおよび国庫短期証券買入オペにかかる「入札要項通知」を受信し、午前 11 時（応募締切時刻）までに「応募通知」を送信します。</li> <li>・日本銀行による募入決定後、テスト参加先（オペ対象先）は、落札した国債買入オペおよび国庫短期証券買入オペについて、「募入決定通知」を受信します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用して行います。</li> </ul>
		<p>【フェーズ2】 シナリオあり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フェーズ1と同じ要領で、国債買入オペおよび国庫短期証券買入オペのオファーから募入決定までの一連の事務を行います。</li> </ul>
(6-3) 国債買現先オペの入札、スタート決済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日を入札日・取引実行日とする国債買現先オペのオファーからスタート決済までの一連の事務を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 シナリオあり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（オペ対象先）は、午前 9 時頃に、国債買現先オペにかかる「入札要項通知」を受信し、午前 9 時 30 分（応募締切時刻）までに「応募通知」を送信します。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
	<p>(確認のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</li> <li>✓ テスト参加先は、国債買現先オペのスタート決済に用いる国債DVPの「決済指示」の機能を確認してください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日本銀行による募入決定後、テスト参加先（オペ対象先）は、落札した国債買現先オペについて、「募入決定通知」を受信します。そのうえで、テスト参加先（オペ対象先）は「売渡国債明細」および「国債売買確認サイン」を送信します。</li> <li>• 日本銀行による国債資金同時受渡依頼の送信後、テスト参加先（オペ対象先または決済代行先）は「国債資金同時受渡依頼受付案内」を受信します。これに対し、テスト参加先（オペ対象先または決済代行先）は「決済指示」を送信し、国債DVPによる決済を行います。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用して行います。</li> </ul> <p>【フェーズ2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実施しません。</li> </ul>
<p>(6-4) 国債買現先オペにかかる売渡国債の差替</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実行中の国債買現先オペについて、売渡国債の差替請求から決済までの一連の事務を行います。</li> </ul> <p>(確認のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</li> <li>✓ テスト参加先は、実行中の国債買現先オペの銘柄差替に用いる国債DVPの「決済指示」の機能を確認してください。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• テスト参加先（オペ対象先）は、実行中の国債買現先オペにかかる「売渡国債差替請求」、「売渡国債差替確認サイン」を送信します。</li> <li>• 日本銀行による国債資金同時受渡依頼の送信後、テスト参加先（オペ対象先または決済代行先）は、「国債資金同時受渡依頼受付案内」等を受信します。これに対し、テスト参加者（オペ対象先または決済代行先）は、「決済指示」を送信します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用して行います。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<b>【フェーズ2】</b> ・実施しません。

### （3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）の（6-2）、（6-3）および（6-4）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料7-3および資料9-2に記載されているすべての画面・帳票（次に掲げるものを除きます。）を確認することができます。なお、（6-1）、（6-3）および（6-4）における国債DVPによる決済については、13.（国債資金同時受渡（国債DVP））を参照してください。

出力帳票
<テストのシナリオ上、対応する処理が行われないもの> （資料7-3） <ul style="list-style-type: none"> <li>・国債利子精算通知</li> <li>・国債売買データ取消通知</li> <li>・確認サイン再入力許可通知</li> </ul> （資料9-2） <ul style="list-style-type: none"> <li>・入札要項通知（帳票コードが4111-00200、4111-00201、4111-00202または4111-00206であるもの）</li> <li>・募入決定通知（帳票コードが4111-00300、4111-00301、4111-00302または4111-00306であるもの）</li> </ul>

## 7. 共通担保資金供給オペ

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴う事務フローの変更はありません。

### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、①フェーズ1の1日目および2日目に、それぞれ当日を入札日・借入日、翌営業日を返済期日とする共通担保資金供給オペのオファーからスタート決済までの一連の事務を行った上で、②フェーズ1の2日目および3日目に、当日を返済期日とする共通担保資金供給オペのエンド決済を行います。

そのうえで、フェーズ2の1日目において、③当日を入札日・借入日とする共通担保資金供給オペのオファーからスタート決済までの一連の事務を行います。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(7-1) 共通担保資金供給オペの入札、スタート・エンド決済	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日を入札日・借入日とする共通担保資金供給オペ（全店貸付）のオファーからスタート決済までの一連の事務を行います。また、その翌営業日に、当日を返済期日とする共通担保資金供給オペ（全店貸付）のエンド決済を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <p>(1日目&lt;2日目&gt;)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、午前9時頃に、共通担保資金供給オペ（全店貸付）にかかる「入札要項通知」を受信し、午前9時30分（応募締切時刻）までに「応募通知」を送信します。</li> <li>日本銀行による募入決定後、テスト参加先は、落札した共通担保資金供給オペ（全店貸付）について、「募入決定通知」を受信します。そのうえで、テスト参加先は、「入札型電子借入内容確認サイン」および「入札型電子借入OKサイン」を送信し、借入を実行します。</li> </ul> <p>(2日目&lt;3日目&gt;)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、稼働開始直後に「入札型電子借入返済期日到来分明細表」を受信し、当日に返済期日を迎える借入の明細を確認します。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、「入札型電子借入返済OKサイン」を送信し、返済を行います。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>【フェーズ2】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></li> <li>・フェーズ1と同じ要領で、共通担保資金供給オペ（全店貸付）のオファーからスタート決済までの一連の事務を行います。</li> </ul>

（3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料9-2および資料12-2に記載されているすべての画面・帳票（次に掲げるものを除きます。）を確認することができます。

出力帳票
<p>&lt;テストのシナリオ上、対応する処理が行われないもの&gt;</p> <p>（資料9-2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入札要項通知（帳票コードが4111-00201、4111-00202、4111-00203、4111-00204、4111-00205 または 4111-00206 であるもの）</li> <li>・募入決定通知（帳票コードが4111-00301、4111-00302、4111-00303、4111-00304、4111-00305 または 4111-00306 であるもの）</li> </ul> <p>（資料12-2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与信増額・減額済通知</li> </ul>

## 8. 相対型電子貸付（補完貸付）

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴って、相対型電子借入の返済方法が「9時同時処理」（日本銀行起動）から「即時処理」（借入人起動）に変更されるとともに、借入人が返済を行うための画面「相対型電子借入返済OKサイン」が新設されます。また、相対型電子借入の申込を行うための画面「相対型電子借入申込・申込取消」に、「返済期日」を入力する欄が追加されます。

### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、フェーズ1の1日目に、①当日を返済期日とする借入の返済にかかる事務を行います。また、1日目および2日目に、②1日目を借入日とし、2日目を返済期日とする借入の申込から返済までの一連の事務を行います。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(8-1) 借入の返済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日を返済期日とする相対型電子借入の返済を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新設される「相対型電子借入返済OKサイン」の入力方法を確認してください。</li> </ul>	<p><b>【フェーズ1】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <p>（1日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、稼働開始直後に「相対型電子借入返済期日到来分明細表」を受信し、当日に返済期日を迎える借入の明細を確認します。</li> <li>・テスト参加先は、「相対型電子借入返済OKサイン」を送信し、返済を行います。</li> </ul> <p>（2日目および3日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として実施しません（ただし、1日目のテストが不調に終わった参加先に対し、2日目および3日目に（8-2）に関する事務を行い、借入の返済にかかるテストを追加的に実施することがあります。）。</li> </ul> <p><b>【フェーズ2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施しません。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(8-2) 借入の申込・ 実行・返済	<p>・当日を借入日とする相対型電子借入の申込から実行までの一連の事務を行います。また、その翌営業日に、当日を返済期日とする相対型電子借入の返済にかかる事務を行います。</p> <p>(確認のポイント)</p> <p>✓ テスト参加先は、新しい「相対型電子借入申込・申込取消」の各項目の設定方法を確認してください。</p>	<p><b>【フェーズ1】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <p>(1日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、「相対型電子借入申込・申込取消」を送信します。</li> <li>・日本銀行による貸付承認後、テスト参加先は、「相対型電子借入済通知」等を受信し、借入が実行されたことを確認します。</li> </ul> <p>(2日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、稼働開始直後に「相対型電子借入返済期日到来分明細表」を受信し、当日に返済期日を迎える借入の明細を確認します。</li> <li>・テスト参加先は、「相対型電子借入返済OKサイン」を送信し、返済を行います。</li> </ul>
		<p><b>【フェーズ2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施しません。</li> </ul>

### (3) RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

(2) のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料 11-3に記載されているすべての画面・帳票（次に掲げるものを除きます。）を確認することができます。

出力帳票
<p>&lt;テストのシナリオ上、対応する処理が行われないもの&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与信増額・減額済通知</li> </ul>

## 9. 担保

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴い、担保余裕額の算出単位が「担保差入金融機関等の店舗単位」から「担保差入金融機関等の法人単位」に変更され、新たに法人毎に取りまとめ店舗（担保出力指定店舗）が設けられます。また、期日担保返戻、振替社債等の定時償還、時価変更等に伴う担保価額の増減の処理時点が変更されます。このほか、同時受払担保が廃止され、共通担保に統合されます。

### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、担保差入・受戻にかかる基本的な機能や事務フローを確認します。また、新しい処理スケジュールの下で、実際に、期日担保返戻、振替社債等の定時償還、時価変更等に伴う担保価額の増減を行い、法人単位での担保余裕額の管理が適切に行われることを確認します。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(9-1) 担保（国債、振替社債等）の差入・受戻	<ul style="list-style-type: none"> <li>担保（国債、振替社債等）の差入・受戻を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全面稼働開始に伴って、整理番号が廃止されます。また、担保差入・受戻の対象とする国債、振替社債等の銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 シナリオなし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先（担保差入先）は、「担保差入（振込国債）」、「担保差入（振替社債等）」、「担保返戻依頼（振込国債）」、「担保返戻依頼（振替社債等）」の機能を利用し、振込国債および振替社債等の担保差入・受戻を行います。</li> <li>テスト参加先（国債決済代行先）は、「担保差入（振込国債）（国債決済代行先）」および「担保返戻依頼（振込国債）（国債決済代行先）」の機能を利用し、振込国債の担保差入・受戻を行います。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行および証券保管振替機構がテスト環境上に設定する架空銘柄のほか、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄を利用して行います。</li> <li>✓ このテストは、フェーズ1の期間中に何度でも実施できます。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<p>【フェーズ2】 <b>シナリオなし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（担保差入先または国債決済代行先）は、必要に応じて、振込国債および振替社債等の担保差入・受戻を行います。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行および証券保管振替機構がテスト環境上に設定する架空銘柄のほか、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄を利用して行います。</li> <li>✓ このテストは、フェーズ2の期間中に何度でも実施できます。</li> </ul>
<p>(9-2) 担保（手形、証券貸付債権）の差入・受戻</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担保（手形、証券貸付債権）の差入・受戻を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全面稼働開始に伴って、手形および証券貸付債権の担保返戻を日本銀行に依頼する画面が廃止され、「担保返戻依頼書」および「担保領収証書」を日本銀行の窓口へ提出します（テストでは、書面の提出に代え、ファクシミリにより日本銀行に送信します。）。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <b>シナリオなし</b></p> <p>（1日目＜2日目＞）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（担保差入先）は、「担保差入（邦貨手形）」または「担保差入（証券貸付債権）」を送信します。また、その際に受信した「担保差入受付通知」をファクシミリにより日本銀行に送信します。</li> <li>・日本銀行による担保受入の処理後、テスト参加先（担保差入先）は「整理番号通知」を受信します。</li> </ul> <p>（2日目＜3日目＞）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（担保差入先）は、1日目（2日目）に担保差入を行った手形または証券貸付債権について、「担保返戻依頼書」および「担保領収証書」をファクシミリにより日本銀行に送信します。</li> <li>・日本銀行による担保返戻の処理後、テスト参加先（担保差入先）は「担保返戻済通知」をファクシミリにより受信します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空の手形および証券貸付債権を利用して行います。</li> <li>✓ 手形および証券貸付債権の現物の授受は行いません。</li> <li>✓ このテストは、手形または証券貸付債権のいずれかを用い、フェーズ1の期間中に1回（合</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<p>計2日間）実施します。</p> <p>【フェーズ2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施しません。</li> </ul>
<p>(9-3)</p> <p>期日担保返戻、振替社債等の定時償還に伴う担保価額の減額</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期日担保返戻、振替社債等の定時償還に伴う担保価額の減額を行います。</li> </ul> <p>(確認のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、見直し後の期日担保返戻、振替社債等の定時償還に伴う担保価額の減額スケジュールを確認してください。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本銀行は、フェーズ1の1日目の稼働開始時点で、振替社債等の定時償還に伴う担保価額の減額を実施します。テスト参加先（担保差入金融機関等の担保出力指定店舗）は、「振替社債等担保価額減額実行日通知」を受信し、定時償還の対象銘柄および減額後の担保価額を確認します。</li> <li>・日本銀行は、同日の稼働開始直後に、振替社債等、手形および証書貸付債権の期日返戻に伴う担保価額の減額を実施します。テスト参加先（担保差入金融機関等の担保出力指定店舗）は、「担保受戻日管理表」および「担保領収証書」（手形および証書貸付債権の場合のみ）を受信し、期日返戻の対象銘柄および減額後の担保価額を確認します。</li> <li>・日本銀行は、同日の振込国債にかかる元利払対象銘柄（供託口以外）入力締切時刻後に、振込国債の期日返戻に伴う担保価額の減額を実施します。テスト参加先（担保差入金融機関等の担保出力指定店舗または国債決済代行者の担保出力指定店舗）は、「担保受戻日管理表」を受信し、期日返戻の対象銘柄および減額後の担保価額を確認します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行および証券保管振替機構がテスト環境上に設定する架空の銘柄、手形および証書貸付債権を利用して行います。なお、フェーズ1の各テスト実施日に、テスト参加先が担保差入済の振込国債、振替社債等、手形および証書貸付債権の中に、定時償還・一部繰上償還の減額実行日または受戻期日・一部受戻期日を迎えるものがある場合には、これらについても担保価額の減額が行われます。</li> <li>✓ 手形および証書貸付債権の現物の授受は行いません。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<p>【フェーズ2】 <b>シナリオなし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本銀行は、フェーズ2の各テスト実施日に、テスト参加先が担保差入済の振込国債、振替社債等、手形および証書貸付債権の中に、定時償還・一部繰上償還の減額実行日または受戻期日・一部受戻期日を迎えるものがある場合には、所定の時刻に担保価額の減額を実施します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 手形および証書貸付債権の現物の授受は行いません。</li> </ul>
<p>(9-4) 時価変更等に伴う担保価額の増減</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時価変更に伴う担保価額の増減を行います。</li> <li>国債現先オペの純与信額発生に伴う担保余裕額の増減を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、時価変更等に伴う担保価額の増減が実施されるタイミングが「5時同時処理」から「稼働開始時点」に変更となります。担保差入金融機関等は、時価変更後においても担保余裕額が負とならないよう適切に管理する必要があります。テスト参加先は、「担保不足・余裕等通知」により時価変更後の担保余裕額を把握する方法を確認してください。</li> <li>✓ テスト参加先は、「所要担保価額」により純与信額を把握する方法を確認してください。</li> </ul>	<p>【フェーズ1、フェーズ2】 <b>シナリオあり</b></p> <p>（1日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施しません。</li> </ul> <p>（2日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先（担保差入金融機関等の担保出力指定店舗）は、稼働開始直後に「担保不足・余裕等通知」を受信し、3日目を適用日として担保の時価変更が行われることを確認します。また、必要に応じ、「時価・掛目一覧」の機能を利用し、変更後における各銘柄の時価を確認します。</li> </ul> <p>（3日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本銀行は、稼働開始時点で、時価変更後の担保価額に基づき担保余裕額を増減します。</li> <li>テスト参加先（担保差入金融機関等の担保出力指定店舗）は、「担保余裕状況」の機能を利用し、最新の担保余裕額を確認します。</li> </ul> <p>（国債系オペの対象先のみ。フェーズ1の2日目および3日目共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本銀行は、稼働開始時点の担保価額および国債現先オペの純与信額に基づき担保余裕額を増減します。</li> <li>テスト参加先（担保差入金融機関等の担保出力指定店舗）は、必要に応じ、「所</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		要担保価額」の機能を利用し、国債現先オペの純与信額を確認します。

（3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料13-3に記載されているすべての画面・帳票（次に掲げるものを除きます。）を確認することができます。

入力画面・出力帳票
<p>&lt;テストのシナリオ上、対応する処理が行われないもの&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担保受入（振替社債等）取消</li> <li>・整理番号通知（帳票コードが 5411-01800 または 5411-01900 であるもの）</li> <li>・担保差入済通知（帳票コードが 5411-02000 であるもの）</li> <li>・担保一部返戻済通知</li> <li>・担保返戻済通知（帳票コードが 5411-02400 であるもの）</li> <li>・担保受戻日管理表（帳票コードが 5411-03100 であるもの）</li> </ul>

## 10. 国債の入札・募集取扱

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴い、国債の入札、募集取扱および個人向け国債の募集取扱に関する電文がコンピュータ接続の対象となります。

### (2) テストの実施内容（概要）

R Tでは、コンピュータ接続先を対象に、国債の入札、募集取扱および個人向け国債の募集取扱に関する一連の事務を行います。なお、これらの事務については、全面稼働開始に伴う入出力機能の変更が軽微（ISIN コードの導入等）ですので、コンピュータ接続先以外を対象とするR Tは実施しません。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(10-1) 国債の入札・ 募集取扱	<ul style="list-style-type: none"> <li>国債の入札に関する一連の事務を行います。</li> <li>国債の募集取扱に関する一連の事務を行います。</li> <li>個人向け国債の募集取扱に関する一連の事務を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先（入札参加者）は、国債の入札発行にかかる「国債入札実施要項通知」を受信し、応募締切時刻までに「入札要項」を送信します。入札方式の別に応じたオファー時刻（①）および応募締切時刻（②）は、次のとおりです。</li> <li>日本銀行による募入決定後、テスト参加先は、午後 2 時頃に「国債入札募入決定通知」等を受信します。</li> </ul> <p>(a) 「価格競争および特別参加者第 I 非競争」入札 ①午前 9 時 30 分頃、②午前 10 時 30 分</p> <p>(b) 「価格競争、非競争および特別参加者第 I 非競争」入札 ①午前 9 時 45 分頃、②午前 10 時 45 分</p> <p>(c) 「特別参加者流動性供給・利回格差競争」入札 ①午後 0 時 30 分頃、②午後 1 時 30 分</p> <p>(d) 「特別参加者第 II 非競争」入札</p>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<p>①午後 0 時 45 分頃、②午後 1 時 45 分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（参加者募集取扱機関等または参加者取扱機関等）は、午前 9 時 45 分から午前 10 時 30 分までの間に、利付国債および個人向け国債にかかる「応募金額報告」を送信します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストにおいて入札および募集取扱を行った国債については、発行払込は実施しません。</li> </ul> <p>【フェーズ 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施しません。</li> </ul>

（3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料 1 4—2に記載されているすべての画面・帳票（次に掲げるものを除きます。）を確認することができます。

出力帳票
<p>&lt;テストのシナリオ上、対応する処理が行われないもの&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国債入札要項受信済通知（帳票コードが 7211-00200 であるもの）</li> <li>・国債入札実施要項通知（帳票コードが 7211-00100、7211-00101 または 7211-00102 であるもの）</li> </ul>

## 1.1. 国債の発行払込

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴い、オンライン払込者が利用する各種の画面（「払込通知要項」、「応募申込要項」、「振決新規記録」等）が、「新規記録等」、「新規記録等訂正」および「新規記録等明細」の3種類に統廃合されます。

### (2) テストの実施内容（概要）

R Tでは、フェーズ1の3日目を発行日として、新規記録等の送信から発行払込の実施までの一連の事務を確認します。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(11-1) 国債の発行払込	<ul style="list-style-type: none"> <li>3日目を発行日として、入札発行、募集取扱発行および個人向け国債募集取扱発行の方法により発行される振決国債の発行払込に関する一連の事務を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新しい「新規記録等」の各項目の設定方法を確認してください。</li> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄はISINコードにより指定することとなります。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <p>（1日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施しません。</li> </ul> <p>（2日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先（オンライン払込者店舗）は、「新規記録等」を送信します。</li> <li>テスト参加先（代行払込先）は、「国債代行払込依頼通知」を受信するほか、「国債代行払込依頼額取りまとめ通知」を受信します。</li> </ul> <p>（3日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、払込方法の別に応じ、発行払込を実施します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(a) 自行払込の場合 テスト参加先（払込金当座勘定引落先）は、「払込OKサイン」を送信します。</li> <li>(b) 代行払込の場合 テスト参加先（代行払込先）は、「代行払込OKサイン」を送信します。</li> <li>(c) 小切手による払込の場合 日本銀行は、小切手による払込が行われたものとして、所要の処理を行います（実際の小切手の提出および小切手による当座勘定の引落は省略します。）。</li> </ul> </li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先は、振込国債の発行払込の実行に関する通知を受信します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、入札参加者、参加者募集取扱機関等または参加者取扱機関等である全てのテスト参加先（オンライン払込者）の応募払込代金があるものとして、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用して行います。</li> <li>✓ オンライン払込者ごとの銘柄別の額面金額合計額は、日本銀行が指定します。オンライン払込者は、払込方法、受入先種別・口座区分、受入先種別・口座区分ごとの額面金額（その合計額を、日本銀行が指定した額面金額合計額と一致させる必要があります。）等の入力内容について、必要に応じ、代行払込先や受入先参加者と相談のうえ決めてください。</li> <li>✓ 債券税制の見直し前の制度を前提としてテストを行います。</li> </ul> <p><b>【フェーズ2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として実施しません。ただし、フェーズ1のテストが不調に終わった参加先に対し、追加的にテストを実施することがあります。</li> </ul>

（3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料14—6に記載されているすべての画面・帳票を確認することができます。

## 12. 国債振替決済

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴い、国債の振替停止期間が廃止され、これに併せて新しい利子配分先変更のスキームが導入されます。また、国債の口座振替に関する各種の画面が「払出先参加者が入力し、かつ、記事欄のあるもの」（画面「口座振替」）に一本化されるとともに、記事欄が細分化（IS020022 メッセージの導入）されます。更に、個人向け国債の中途換金にかかる売渡方法が3時同時処理（日本銀行起動）から午前11時以後に日本銀行が順次実行する方法に変更されるとともに、その決済方式が国債DVP決済と同様の方式となります。

### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、①フェーズ1およびフェーズ2の3日目を元利払日として、元利金配分（利子配分先変更を含みます。）にかかる一連の事務を確認するとともに、②フェーズ1の3日目を中途換金日として、個人向け国債の売渡申込から売渡実行までの一連の事務を確認します。また、口座振替による国債の受払について、③フェーズ1で基本的な機能や入力項目の設定方法を確認したうえで、④フェーズ2において、現行日銀ネット上で実際に決済された証券市場取引のデータを用いて、国債振替決済における1日の取引・決済が円滑に行われることを実践的に確認します。なお、フェーズ2で用いるデータの種類や範囲については、別途お知らせします。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(12-1) 国債の口座振替 （国債の元利分離・統合を含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先から他のテスト参加先への国債の口座振替を行います。</li> <li>・国債の元利分離・統合を行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新しい「口座振替」の各項目の設定方法を確認してください。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">口座振替：フリーアクセス</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">元利分離・統合：シナリオなし</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（振決参加者）は、「口座振替」の機能を確認します。</li> <li>・テスト参加先（分離統合申請者）は、「元利分離」および「元利統合」の機能を確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄のほか、テスト参加先がテス</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</li> </ul>	<p>ト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄を利用して行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「口座振替」を行う場合には、予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。</li> <li>✓ 自己の参加者口座の他の種別・口座区分に「口座振替」を行うこともできます。</li> </ul> <p><b>【フェーズ2】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">口座振替：シナリオあり（証券市場）</span>  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">元利分離・統合：シナリオなし</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（振決参加者）は、全面稼働開始後の市場慣行に沿って、「口座振替」を用いた1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</li> <li>・テスト参加先（分離統合申請者）は、適宜、「元利分離」および「元利統合」の機能を確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄を利用して行います。なお、テスト参加先は、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用してテストを行うこともできます。</li> <li>✓ 「口座振替」を用いるテストは、日証協が作成するシナリオに沿って行います。なお、当該シナリオとは別に、決済システムや他のテスト参加先との間で、「口座振替」を行うこともできます（予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。また、他のテストメニューの実施に支障がないように注意してください。）。</li> </ul>
(12-2) 国債の元利金配分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェーズ1およびフェーズ2の3日目を元利払日として、元利金配分（利子配分先変更を含みます。）にかかる一連の事務を行います。</li> </ul>	<p><b>【フェーズ1、フェーズ2】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオなし</span></p> <p>※国債の利子の配分先を他の振決参加者に変更する事務を行う場合には、アンダーバーを付した利子配分先変更に関するテストを実施してください。</p> <p>（1日目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（振決参加者）は、元利金配分額等を適宜照会します。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
	<p>(確認のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、国債の元利金配分に関する照会機能および出力帳票の内容を確認します。</li> <li>✓ テスト参加先のうち、国債の利子の配分先を他の振決参加者に変更する事務を行う先は、新しい利子配分先変更スキームの機能を確認してください。</li> <li>✓ 全面稼動開始に伴い、銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>テスト参加先（振決参加者）は、事前入力分の「利子配分先変更」を送信します。</u></li> </ul> <p>(2日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テスト参加先（振決参加者）は、元利金配分額等を適宜照会します。</li> <li>・ テスト参加先（参加者口座に種別「供託口」が設定されている振決参加者）は、「国債振替決済元金配分額明細表（供託口）」、「国債振替決済利子配分額明細表（供託口）」を受信します。</li> <li>・ <u>テスト参加先（振決参加者）は、元利払対象銘柄（供託口以外）入力締切時刻までに、事前入力分の「利子配分先変更」を送信します。</u></li> <li>・ 日本銀行は、同時刻後に、利子配分先変更処理（事前入力分）を実行します。<u>テスト参加先（振決参加者）は、「国債振替決済利子配分先変更処理（事前入力分）終了通知」を受信後、必要に応じて、即時処理分の「利子配分先変更」を送信します。</u></li> <li>・ <u>テスト参加先（振決参加者）は、同処理の終了後、必要に応じて「利子配分先変更終了・取消」を送信します。</u></li> </ul> <p>(3日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本銀行は、稼動開始直後に、元利金配分額の振込を行います。</li> <li>・ テスト参加先（振決参加者および元利金振込先店舗）は、稼動開始直後に、元利金配分関係帳票を受信し、元利金の配分結果を確認します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄のほか、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄を利用してテストを行います。</li> <li>✓ 「利子配分先変更」を行う場合には、予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。</li> <li>✓ 債券税制の見直し前の制度を前提としてテストを行います。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(12-3) 個人向け国債の中 途換金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フェーズ1の3日目を中途換金日として、個人向け国債の売渡申込から売渡実行までの一連の事務を行います。</li> </ul> <p>(確認のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、中途換金日における個人向け国債の売渡の実行タイミングおよび出力帳票の内容を確認します。</li> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄はISINコードにより指定することとなります。</li> </ul>	<p><b>【フェーズ1】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオなし</span></p> <p>(1日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（取扱機関等<sup>※</sup>）は、「個人向け国債売渡申込（中途換金）」を送信します。</li> </ul> <p>※参加者取扱機関、取りまとめ参加者および中途換金取りまとめ参加者。</p> <p>(2日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（売渡代金入金店舗）は、稼働開始直後に「個人向け国債売渡代金（中途換金）内訳通知」を受信します。</li> </ul> <p>(3日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本銀行は、午前11時経過後、個人向け国債の売渡（国債整理基金の参加者口座への振替および売渡代金入金店舗の当座勘定への入金）を実行します。</li> <li>・テスト参加先（取扱機関等および売渡代金入金店舗）は、売渡の実行に関する通知（国債資金同時受渡関係事務に関する帳票）を受信します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄（種別名なしの種別の預り口Ⅲに記録します。）のほか、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄を利用してテストを行います。</li> <li>✓ 売渡代金入金店舗は、国債資金同時受渡関係事務における資金受入・払込先に限ります。取扱機関等は、予め、売渡代金入金店舗となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。</li> </ul> <p><b>【フェーズ2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として実施しません。ただし、フェーズ1のテストが不調に終わった参加先に対し、追加的にテストを実施することがあります。</li> </ul>

(3) RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

(2) のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料 15—3に記載されているすべての画面・帳票（次に掲げるものを除きます。）を確認することができます。

出力帳票
<テストのシナリオ上、対応する処理が行われないもの>
・ 国債振替決済精算税額振込通知
・ 国債振替決済精算税額明細通知
・ 国債振替決済払出済通知（全銘柄残高移管）
・ 国債振替決済受入済通知（全銘柄残高移管）

### 1.3. 国債資金同時受渡（国債DVP）

#### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼働開始に伴い、国債DVPのメッセージフローが変更されます。また、国債資金同時受渡依頼の画面が記事欄のあるもの（画面「国債資金同時受渡依頼」）に一本化されるとともに、記事欄が細分化（IS020022メッセージの導入）されます。更に、当座勘定（同時担保受払時決済口）および同時受払担保が廃止され、それぞれ当座勘定および共通担保に統合されま

#### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、①フェーズ1で基本的な機能を確認したうえで、②フェーズ2において、現行日銀ネット上で実際に決済された国債DVPのデータを用いて、国債DVPにかかる1日の取引・決済が円滑に行われることを実践的に確認します。なお、フェーズ2で用いるデータの種類や範囲については、別途お知らせします。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(13-1) 国債のDVP決済 （同時担保受払を含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先と他のテスト参加先との間で、国債DVPを行います。</li> </ul> <p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新しいメッセージフローに基づく国債のDVP決済（同時担保受払を含みます。）の方法を確認してください。</li> <li>✓ 全面稼働開始に伴って、当座勘定（同時担保受払時決済口）および同時受払担保が廃止され、それぞれ当座勘定および共通担保に一本化されます。また、共通担保の担保余裕額が「担保差入金融機関等の法人単位」で算出されるようになります。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <b>フリーアクセス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（振込参加者および資金受入・払込先）は、「国債資金同時受渡依頼」および「決済指示」の機能を確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄のほか、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄を利用して行います。</li> <li>✓ 「国債資金同時受渡依頼」を行う場合には、予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。</li> </ul>
		<p>【フェーズ2】 <b>シナリオあり（証券市場）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（振込参加者および資金受入・払込先）は、全面稼働開始後の</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
	<p>す（9. 担保を参照してください）。テスト参加先は、当座勘定残高および担保余裕額の管理方法を確認してください。</p> <p>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</p>	<p>市場慣行に沿って、「国債資金同時受渡依頼」および「決済指示」を用いた1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</p> <p>（留意事項）</p> <p>✓ このテストは、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄を利用して行います。なお、テスト参加先は、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用してテストを行うこともできます。</p> <p>✓ このテストは、日証協が作成するシナリオに沿って行います。なお、当該シナリオとは別に、他のテスト参加先との間で、「国債資金同時受渡依頼」および「決済指示」を用いたテストを行うこともできます（予め、相手方となるテスト参加先の同意を得ておく必要があります。また、他のテストメニューの実施に支障がないように注意してください。）。</p>

### （3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料16-3に記載されているすべての画面・帳票を確認することができます。

#### 1 4. 外国中央銀行等にかかる資金・国債決済

##### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

新日銀ネットの全面稼動開始に伴い、外国中央銀行等が日本銀行に開設している預り金（海外預り金）の受払に関する電文に ISO20022 メッセージが導入されます。また、外国中央銀行等が振替元・振替先となる国債の受払については、新しい国債資金同時受渡および口座振替の機能を利用して行います。

##### (2) テストの実施内容（概要）

RTでは、①フェーズ1で基本的な機能を確認したうえで、②フェーズ2において、現行日銀ネット上で実際に決済された海外預り金および国債のデータを用いて、1日の取引・決済が円滑に行われることを実践的に確認します。なお、フェーズ2で用いるデータの種類や範囲については、別途お知らせします。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(14-1) 海外預り金の 受入・払出	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国中央銀行等を資金の支払人・受取人とする当座勘定の入金・引落を行います。</li> </ul> （確認のポイント） ✓ テスト参加先は、新しい電文に基づき決済関係者を特定する方法やコルレス銀行に送信する SWIFT MT メッセージとの対応関係を確認してください。	<b>【フェーズ1】</b> シナリオあり <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先（引落入金依頼人）は、外国中央銀行等を資金の受取人とする「CUSTOMER TRANSFER (DEPOSITS OF OVERSEAS INSTITUTIONS)」または「BANK TRANSFER (DEPOSITS OF OVERSEAS INSTITUTIONS)」を送信します。</li> <li>日本銀行による海外預り金勘定からの引落後、テスト参加先（入金先）は外国中央銀行等を資金の支払人とする「当座勘定入金通知（海外預り金）」等を受信します。</li> </ul>
		<b>【フェーズ2】</b> シナリオあり <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、全面稼動開始後のスケジュールに沿って、外国中央銀行等を資金の支払人・受取人とする1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
<p>(14-2) 国債のDVP決済 (同時担保受払を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国中央銀行等を国債の振替元・振替先とする国債DVPを行います。</li> </ul> <p>(確認のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新しいメッセージフローに基づく国債のDVP決済（同時担保受払を含みます。）の方法を確認してください。</li> <li>✓ 全面稼働開始に伴って、当座勘定（同時担保受払時決済口）および同時受払担保が廃止され、それぞれ当座勘定および共通担保に一本化されます（13. 国債資金同時受渡を参照してください）。また、共通担保の担保余裕額が「担保差入金融機関等の法人単位」で算出されるようになります（9. 担保を参照してください）。テスト参加先は、当座勘定残高および担保余裕額の管理方法を確認してください。</li> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄はISINコードにより指定することとなります。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（払出先参加者）は、外国中央銀行等を国債の振替先とする「国債資金同時受渡依頼」を送信します。</li> <li>・日本銀行による「国債資金同時受渡依頼」の送信後、テスト参加先（受入先参加者）は、外国中央銀行等を国債の振替元とする「国債資金同時受渡依頼受付案内」等を受信します。これに対し、テスト参加先（受入先参加者）は「決済指示（資金）」を送信し、国債DVPによる決済を行います。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用して行います。</li> </ul> <p>【フェーズ2】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（払出先参加者または受入先参加者）は、全面稼働開始後のスケジュールに沿って、外国中央銀行等を国債の振替元・振替先とする1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</li> </ul> <p>(留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄（各テスト想定日に現行日銀ネットで決済された銘柄に限ります。）を利用して行います。</li> </ul>
<p>(14-3) 国債の口座振替</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国中央銀行等を国債の振替元・振替先とする国債の口座振替を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（払出先参加者）は、外国中央銀行等を国債の振替先とする「口座振替」を送信します。</li> <li>・日本銀行による「口座振替」の送信後、テスト参加先（受入先参加者）は、外国中央銀行等を国債の振替元とする「国債振替決済受入済通知」を受信し</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
	<p>（確認のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ テスト参加先は、新しい「口座振替」の各項目の設定方法を確認してください。</li> <li>✓ 全面稼働開始に伴い、銘柄は ISIN コードにより指定することとなります。</li> </ul>	<p>ます。</p> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、日本銀行がテスト環境上に設定する架空銘柄を利用して行います。</li> </ul> <hr/> <p><b>【フェーズ2】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオあり</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト参加先（払出先参加者または受入先参加者）は、全面稼働開始後のスケジュールに沿って、外国中央銀行等を国債の振替元・振替先とする1日の取引・決済が円滑に行われることを確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ このテストは、テスト参加先がテスト環境において保有している架空銘柄以外の銘柄（各テスト想定日に現行日銀ネットで決済された銘柄に限ります。）を利用して行います。</li> </ul>

### （3）RTにおいて確認できる新日銀ネットの機能

（2）の(14-1)のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料3-3に記載されているすべての画面・帳票を確認することができます。なお、(14-2)および(14-3)については、12.（国債振替決済）および13.（国債資金同時受渡（国債DVP））を参照してください。

## 16. 業務運営

### (1) 現行日銀ネットからの主な変更点

#### イ、「コアタイム」の導入と「当日処理終了」による残高確定

新日銀ネットの全面稼動開始後は、稼動時間とは別に、新たに「コアタイム」が設けられます。コアタイム中には、全利用先において新日銀ネットを通じた当日取引を可能とする事務処理態勢を確保する必要があります。また、コアタイム終了後には、各利用先が、自らの判断で、①新日銀ネットの利用の終了、②当日の自己の残高の確定（当日処理終了）を行うことができます。

#### ロ、「入出力グループ」の導入

新日銀ネットでは、電文の送受信に関して、新たに「入出力グループ」の仕組みが導入されます。利用先は、自行（社・庫）における仕事のまとまりに応じ、最適な「入出力グループ」を登録し、同グループと送信権限者、オペレータ、受信電文（E X一方通知電文）とを紐付けて管理します。具体的には、①入出力グループおよび各グループに設定する権限範囲・出力帳票の種類を登録したうえで、②各入出力グループに紐付ける端末認証装置、送信権限者およびオペレータを登録します。また、実際に電文を送受信する際には、③入力者（送信権限者、オペレータ）は、日銀ネット端末において、入出力グループを指定して操作を行います。①～③が正しく実施されないと、希望どおりに電文の送受信を行うことはできません。

#### ハ、B I Cコードの利用可能化

このほか、新日銀ネットの全面稼動開始に伴い、金融機関等および金融機関等店舗を示すコードとして、現行日銀ネットで使用しているコードに加え、B I Cコードが使用できるようになります（予め、日本銀行に届け出を行う必要があります。）。また、利用先においては、出力帳票に現行のコードとB I Cコードのいずれを表示するかを自ら設定できます。

### (2) テストの実施内容（概要）

R Tでは、①フェーズ1で「当日処理終了・取消」の基本的な機能を確認したうえで、②フェーズ2のテスト時間中に「コアタイム」を設け、コアタイム終了後における「当日処理終了・取消」の運用を実践的に確認します。また、③フェーズ1、2の両方において、入出力グループやB I Cコードを用いた電文の送受信を確認します。なお、入出力グループについては、R Tに先立ち、

利用先自身が日銀ネット端末を用いて登録する期間を設けます。テスト参加先は、必ず、当該期間中に入出力グループの設定を行ったうえで、RTに参加してください（RTでは原則として追加的な登録・変更・削除は行いません。）。

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(16-1) 入出力グループの 指定等	<ul style="list-style-type: none"> <li>入出力グループを指定して電文の送受信を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1、フェーズ2】シナリオなし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、入出力グループを指定して、電文の送受信を行います。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>RTの実施に先立ち、テスト参加先が、日銀ネット端末を利用して、RTで使用する入出力グループの登録、各入出力グループと端末認証装置、送信権限者、オペレータとの紐付けを行う期間を設けます。RTの各テスト実施日においては、原則として入出力グループの登録・変更・削除は実施しません（仮に、実施する場合には、電文の送受信に影響がないよう細心の注意が必要となります。）。</li> </ul>
(16-2) 当日処理終了の入 力・取消	<ul style="list-style-type: none"> <li>当日処理終了およびその取消を行います。</li> </ul>	<p>【フェーズ1】シナリオなし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は、「当日処理終了・取消」の機能を確認します。</li> </ul> <p>【フェーズ2】シナリオなし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト時間中に「コアタイム」を設け、コアタイム終了後における「当日処理終了・取消」の運用を実践的に確認します。</li> </ul> <p>（留意事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このテストは、テスト時間中の一定時間を便宜的に「コアタイム」として位置づけて行います。このため、テスト上の「コアタイム」は全面稼働開始後に実際に用いる「コアタイム」と異なります。</li> </ul>

	テスト内容（概要）	テスト実施日における流れ
(16-3) 受信コード種類の 設定・解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>出力帳票に表示する金融機関等または金融機関等店舗を示すコードの種類（現行コードまたはB I Cコードの別）を設定します。</li> </ul>	<p>【フェーズ1、フェーズ2】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオなし</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は「受信コード種類設定・解除」を送信します。</li> </ul>
<p>(16-4) については、「R Tへの参加希望調査」において、日本銀行に対し、金融機関等または金融機関等店舗を示すコードとしてB I Cコードを使用する旨を届け出たテスト参加先を対象に行います。</p>		
(16-4) 優先B I Cコード 番号の設定・変 更・解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のB I Cコードを日本銀行に届け出ている場合、出力帳票にいずれのB I Cコードを表示するかを設定します。</li> </ul>	<p>【フェーズ1、フェーズ2】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">シナリオなし</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テスト参加先は「優先B I Cコード番号設定・変更・解除」を送信します。</li> </ul>

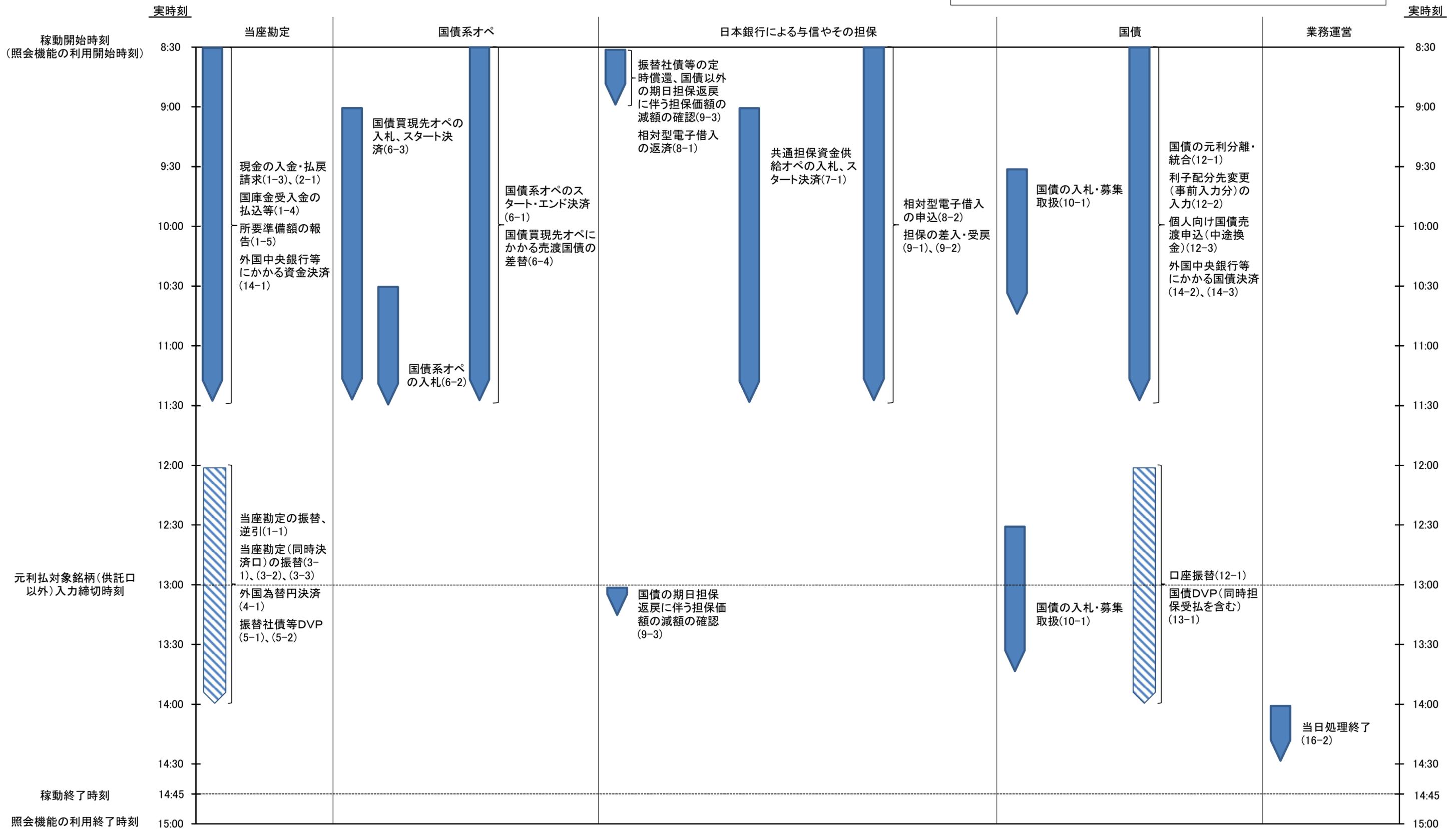
### (3) R Tにおいて確認できる新日銀ネットの機能

(2) のテストに参加することにより、「新日銀ネットの入出力イメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料17ー2に記載されているすべての画面・帳票を確認することができます。

以 上

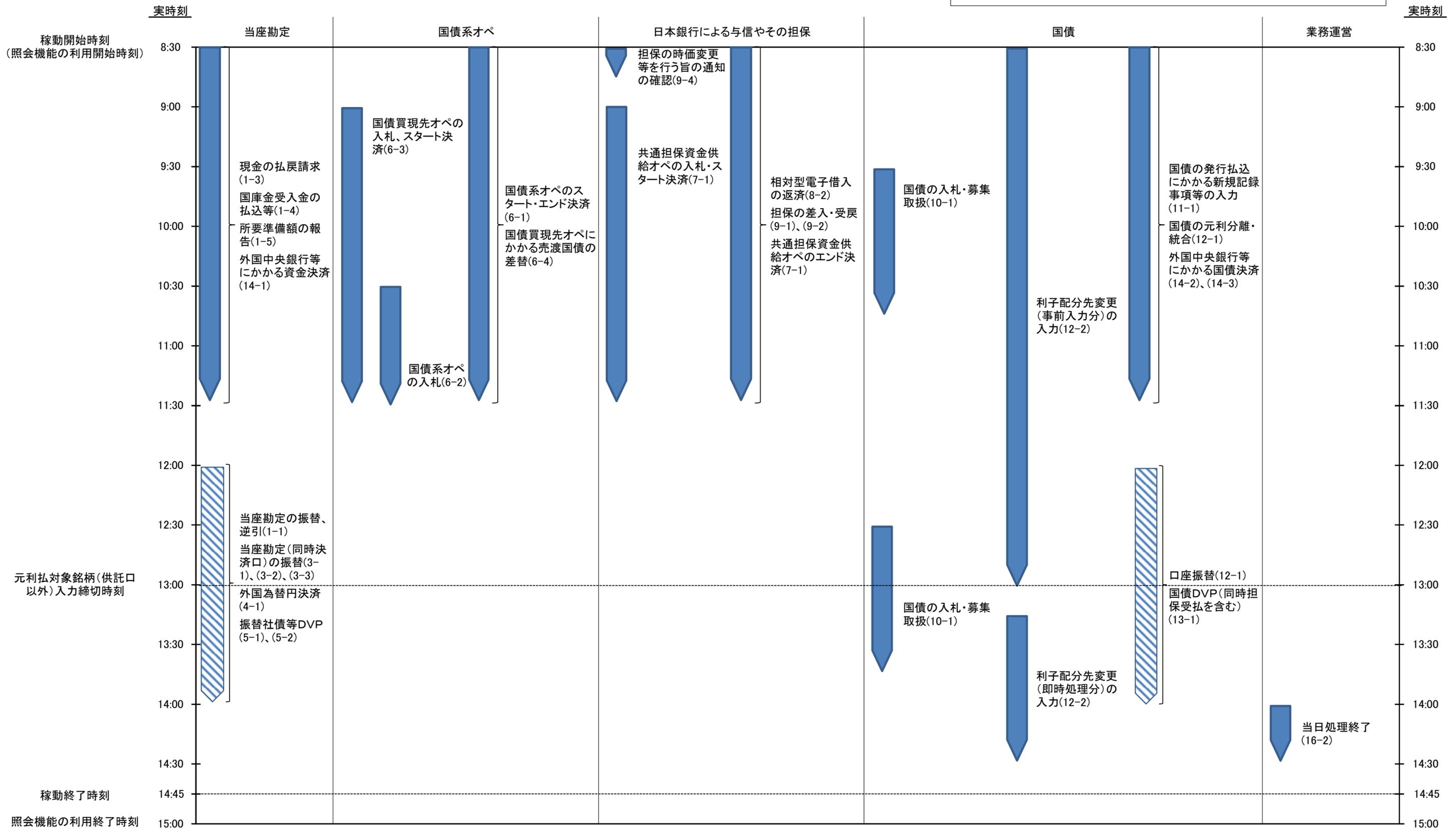
# RTフェーズ1における1日の流れ 第1回(1日目)

 : 日本銀行との取引に関する試験
  : フリーアクセスによる機能確認  
 各項目のカッコ内の番号は、本文3. でお示した事務の種類に対応します。



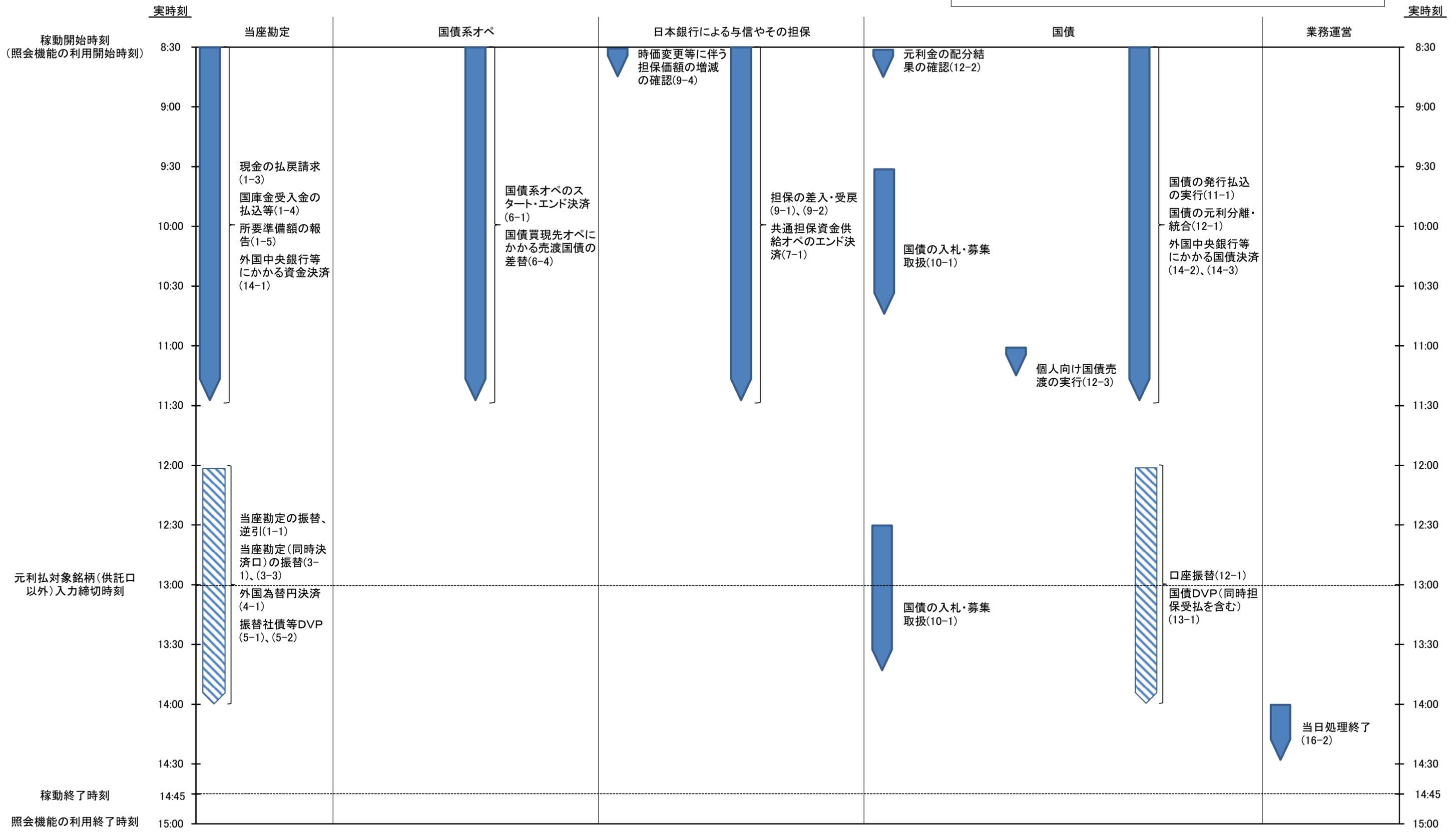
# RTフェーズ1における1日の流れ 第2回(2日目)

 : 日本銀行との取引に関する試験  
 : フリーアクセスによる機能確認  
 各項目のカッコ内の番号は、本文3. でお示した事務の種類に対応します。



# RTフェーズ1における1日の流れ 第3回(3日目)

 : 日本銀行との取引に関する試験
  : フリーアクセスによる機能確認  
 各項目のカッコ内の番号は、本文3. でお示した事務の種類に対応します。



## コンピュータ接続によるR Tへの参加について

- コンピュータ接続を利用してR Tに参加するための要件や、参加にあたっての留意事項は、次のとおりです。なお、R T実施までの作業については、別途コンピュータ接続利用希望先に 2013 年 9 月にお送りしました「新日銀ネットコンピュータ接続に関するスケジュール（2013 年 9 月時点）について」もご参照ください。

### 1. コンピュータ接続を利用してR Tに参加するための要件

- ① 全面稼動開始時点から新日銀ネットのコンピュータ接続を利用することについて、予め、日本銀行から承認を受けていること
- 全面稼動開始時点からコンピュータ接続の利用を希望される日銀ネット利用先からは、既に、日本銀行に対して、「コンピュータ接続に関する審査用調査表」をご提出いただき、開発を承認する旨をご連絡済みです。今後、R Tの前に、必要事項を修正いただいた上で、再度「コンピュータ接続に関する審査用調査表」をご提出いただき、新日銀ネットコンピュータ接続の利用にあたっての審査を行います。
- ② R Tに先立って実施されるオンライン接続試験に参加すること等を通じて、自行（社・庫）システムにおいて作成する電文のフォーマットやデータの設定内容が正しいことを確認すること
- 追加的に、オンライン接続試験への参加を希望される場合には、2014 年 3 月末までに日本銀行システム情報局にご連絡ください。

### 2. 新日銀ネットにおける試験環境の設定

- ・ コンピュータ接続を利用してR Tに参加することを希望する日銀ネット利用先は、日本銀行が 2014 年 5 月頃を目処に実施する予定のR Tの参加希望調査の中で、所定の事項をご回答ください。日本銀行は、ご回答いただいた内容に基づき、R Tにおいてコンピュータ接続を利用するために必要なシステム環境を新日銀ネット上に設定します。

### 3. R Tに参加する際の留意事項

#### (1) システム環境

- ・ 日銀ネット利用先の自行（社・庫）システムは新日銀ネットの全面稼動開始時に使用するシステムとしてください。
- ・ 日本銀行と日銀ネット利用先は通信回線（L 3 サービス）を利用して接続します。通信回線（L 3 サービス）には本番環境に接続する本番網と、接続試験環境に接続する接続試験網がありますが、新日銀ネットの全面稼動開始時点の本番環境として使用する本番網を使用します。
- ・ 日銀ネット利用先のシステム設定（金融機関等店舗コード、CPU接続制御コード、ロジカルパス、IOR等）は、新日銀ネットの全面稼動開始時点のもの（日銀ネット利用先のシステム設定は「コンピュータ接続に関するシステム構築用アンケート（本番環境）」および「コンピュータ接続に関するシステム構築用調査表」に記入し日本銀行に別途提出していただくもの）としてください。なお、公開鍵証明書およびCCSキーについては、オンライン接続試験で使用した公開鍵証明書（試験用）およびCCSキー（試験用）ではなく、R T実施前に新たに配付するものを使用してください<sup>(注)</sup>。

（注）オンライン接続試験終了後からR T開始までの間に、公開鍵証明書およびCCSキーの確認試験を実施する予定です。詳細は別途お知らせします。

- ・ 日銀ネット利用先の試験環境については、現行日銀ネットの本番利用に一切影響を与えない環境を用意してください。また、試験で送受信したデータについても本番データと混同しないようご注意ください。

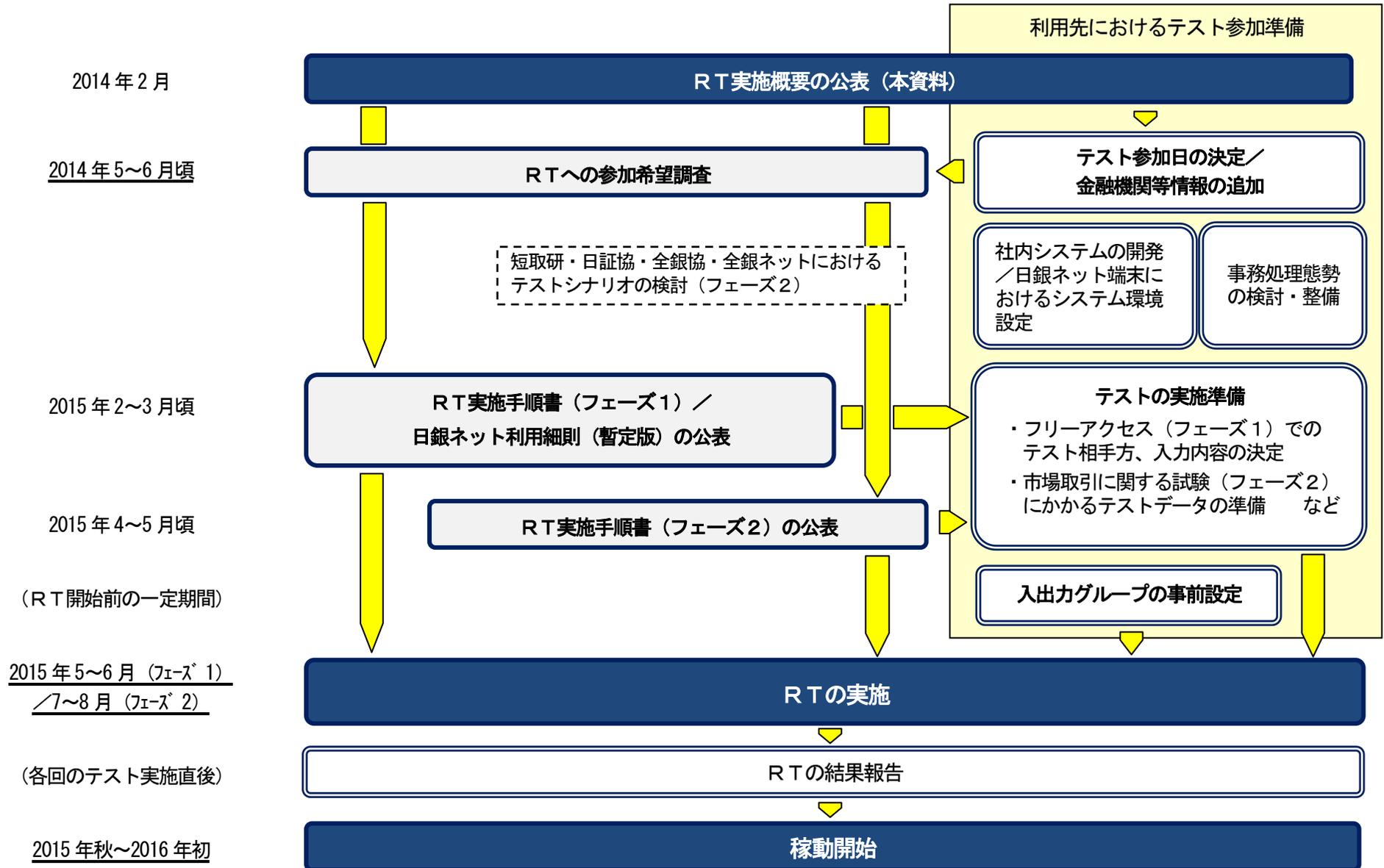
#### (2) システム運用

- ・ R Tへの参加当日は、実際に参加するテストの内容に関らず、フェーズ1においては「参加を必須とする時間帯」の開始時刻までに、フェーズ2においてはコアタイム開始時刻までに（具体的な時刻については本文の図表6をご覧ください）、CPU接続開始処理を実施してください。

- テスト終了時には、CPU接続最終処理を実施する予定としていますが、当初予定していたテスト項目をすべて実施した先については、フェーズ1においては「参加を必須とする時間帯」の終了時刻以降、フェーズ2においてはコアタイム終了時刻以降であれば（具体的な時刻については本文の図表6をご覧ください）、CPU接続最終処理を待たずに、CPU接続終了処理により当日のコンピュータ接続を終了して差し支えありません。
- RTへの参加当日にCPU接続終了処理またはCPU接続最終処理によりコンピュータ接続を終了した後、日銀ネット利用先のシステムをRT用の試験環境から現行本番環境へ戻す場合等の確認として、現行日銀ネットのコンピュータ接続システムとの疎通確認（接続相手先確認用イニシャル処理）を実施することができます。
- コンピュータ接続を利用したRTへの参加と並行して、日銀ネット端末において入出力機能を確認することもできます。この場合、テスト参加先におかれては、端末操作に伴う口座残高等の異動情報を自行（社・庫）内のシステムに反映する作業が必要となる可能性がありますので、ご注意ください。

以 上

新日銀ネット全面稼動開始に向けたRTの準備スケジュール



## 新日銀ネットで新たに必要となる金融機関等の情報について

○ 新日銀ネットの業務処理に用いる金融機関等の情報（名称、利用業務の種類等）については、原則として、現行日銀ネットから自動的に引き継がれます。もともと、一部の利用業務では、利用金融機関等の皆様から申し出ていただく内容に基づき、日本銀行において、新日銀ネットに金融機関等の情報を追加的に設定する必要があります。本資料では、利用金融機関等の皆様から申し出ていただく情報の種類や、それらの情報が必要となる背景をお示しします。

—— これらの情報については、日本銀行が、新日銀ネット上にR Tの実施環境を設定する際に用います<sup>(注)</sup>。また、その後の異動がない限り、全面稼動開始時点の本番環境を設定する際にも用います。

(注) オンライン接続試験のテスト環境の設定にも用います。

○ 日本銀行は、2014年5月頃に実施するR Tへの参加希望調査（本文6. をご参照ください。）の中で、利用金融機関等の皆様に、次の1. から5. の事項をお伺いします。利用金融機関等の皆様におかれては、本資料をお読みいただき、日本銀行に申し出る内容をご検討いただきますようお願いいたします。

—— 特に、3. (1)、(2) および4. (2) については、該当する利用金融機関等の皆様において、必ず日本銀行への申し出が必要となりますので、ご注意ください。

—— なお、全面稼動開始に伴って、新たに利用業務の追加等を予定している場合には、前広に、日本銀行にご連絡ください。

1. 当座勘定（同時決済口）

希望する場合のみ申し出てください

<p>現行日銀ネットからの 業務面の変更内容</p>	<p>現行日銀ネットでは、大口内国為替取引にかかる当座勘定（同時決済口）の①決済済通知および②待機通知については、全銀ネットのみに送信しています。また、③取消通知については、全銀ネットおよび振替依頼人のみに送信しています。</p> <p>これに対し、新日銀ネットでは、予め日銀ネット利用先が希望する場合には、これらの処理済通知（①～③）を、全銀ネットに加え、当該利用先にも送信します。</p> <p>〔 「新日銀ネットの入出カイメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料 4-1、1. (3) 参照 〕</p>
<p>新たに日本銀行に申し出が必要となる事項</p>	<p>大口内国為替取引にかかる当座勘定（同時決済口）の処理済通知の受信を希望する旨</p>
<p>申し出を行う利用金融機関等</p>	<p>大口内国為替取引についての日銀ネット利用金融機関等のうち、希望する金融機関等</p>

2. 振替社債等資金同時受渡（振替社債等DVP）

希望する場合のみ申し出てください

<p>現行日銀ネットからの 業務面の変更内容</p>	<p>現行日銀ネットでは、振替社債等DVPの資金決済については、当座勘定を利用して行っています。</p> <p>これに対し、新日銀ネットでは、日銀ネット利用先が当座勘定（同時決済口）を開設している場合には、振替社債等DVPの資金決済については、当座勘定のほか、当座勘定（同時決済口）を利用して行うことができます。</p> <p>〔 「新日銀ネットの入出カイメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料 8-1、1. (1) 参照 〕</p>
<p>新たに日本銀行に申し出が必要となる事項</p>	<p>新たに当座勘定（同時決済口）の開設を希望する旨</p>

申し出を行う利用金融機関等	振替社債等DVPについての日銀ネット利用金融機関等のうち、希望する金融機関等 —— 現行日銀ネットにおいて、当座勘定（同時決済口）を開設している日銀ネット利用金融機関等については、申し出を行う必要はありません。
---------------	--

### 3. 担保

#### (1) 担保出力指定店舗 該当する利用金融機関等は必ず申し出てください

現行日銀ネットからの 業務面の変更内容	<p>現行日銀ネットでは、日本銀行から与信を受ける金融機関等（担保差入金融機関等）の店舗単位で担保余裕額を算出しています。</p> <p>これに対し、新日銀ネットでは、日本銀行から与信を受ける金融機関等（担保差入金融機関等）の法人単位で担保余裕額を算出します。このような仕組みの下で、担保差入金融機関等が円滑に担保余裕額を把握できるようにするため、新たに法人毎に取りまとめ店舗（これを「担保出力指定店舗」といいます。）を設けます。</p> <p>担保出力指定店舗には、担保の期日管理や時価変更等に関する通知が一括して送信されるほか、担保出力指定店舗以外の店舗において担保受払が行われた場合には、その旨の通知（「担保差入済通知」「担保返戻済通知」等）が送信されます。</p> <p style="text-align: center;"> <span style="font-size: 2em;">{</span>           「新日銀ネットの入出カイメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料 13-1、1. (3)、            資料 13-3 参照         </p>
新たに日本銀行に申し出が必要となる事項	「担保出力指定店舗」とする店舗（当座勘定取引についての日銀ネット利用先のうち、1店舗）
申し出を行う利用金融機関等	担保についての日銀ネット利用金融機関等（担保差入金融機関等）（必ず申し出が必要です。）

(2) 振込国債の期日担保返戻先口座および利子の支払先口座

該当する利用金融機関等は必ず申し出てください

<p>現行日銀ネットからの 業務面の変更内容</p>	<p>現行日銀ネットでは、担保差入金融機関等が国債決済代行者を通じて担保差入を行った振込国債については、同一の国債決済代行者を通じてのみ受戻することができます。</p> <p>これに対し、新日銀ネットでは、①担保差入金融機関等が国債決済代行者（国債振替決済制度の預り口）を通じて担保差入を行った振込国債について、担保差入金融機関等が自ら（国債振替決済制度の自己口）に受戻すことや、別の国債決済代行者が（国債振替決済制度の預り口）に受戻することができるほか、②担保差入金融機関等が自ら（国債振替決済制度の自己口）から担保差入を行った振込国債について、国債決済代行者が（国債振替決済制度の預り口）に受戻することができます<sup>(注)</sup>。また、担保差入を行った振込国債の利子について、担保差入金融機関等が指定する口座（自らの日本銀行当座勘定または国債決済代行者の日本銀行当座勘定）に支払いを受けることができます。</p> <p>(注) ①、②の取扱いは、種別名なしの種別（種別コード「00」）に記録されている振込国債に限ります。これ以外の種別に記録されている振込国債については、担保差入金融機関等自身による担保受払のみを可能とします。</p> <p>〔「新日銀ネットの入出カイメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料 13-1、1. (2) 参照〕</p>
<p>新たに日本銀行に申し出が必要となる事項</p>	<p>①受戻期日に日本銀行から振込国債の返戻を受ける口座（自らの自己口とするか、国債決済代行者の預り口とするか）<sup>(注1)</sup></p> <p>②利払日に日本銀行から振込国債の利子の支払いを受ける口座（自らの日本銀行当座勘定とするか、国債決済代行者の日本銀行当座勘定とするか）<sup>(注2)</sup></p> <p>(注1) 種別名なしの種別（種別コード「00」）または参加者分別口（同「71」～「79」。）以外の種別からの担保差入を行う場合には、期日担保返戻を受ける口座として「自らの自己口」を、利子の支払いを受ける口座として「自らの日本銀行当座勘定」をそれぞれ指定する必要があります。</p> <p>(注2) 担保差入金融機関等または国債決済代行者が、国債振替決済制度において元利金の振込先として指定した日本銀行当座勘定とします。</p>
<p>申し出を行う利用金融機関等</p>	<p>国債決済代行者に担保受払事務を委託する日銀ネット利用金融機関等（必ず申し出が必要です。）</p>

#### 4. 国債振替決済

##### (1) 複数口座の開設 希望する場合のみ申し出てください

現行日銀ネットからの 業務面の変更内容	新日銀ネットでは、同一の振替参加者が種別名なしの種別（種別コード「00」）と同様の種別を複数設けることができます（「参加者分別口1」～「参加者分別口9」、種別コード「71」～「79」）。  「新日銀ネットの入出カイメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料 15-1、1. (10) 参照
新たに日本銀行に申し出が必要となる事項	参加者分別口の設定を希望する旨および設定する種別（参加者分別口1～参加者分別口9）
申し出を行う利用金融機関等	希望する振替参加者

##### (2) 個人向け国債の取扱機関等による国債DVPの利用 該当する利用金融機関等は必ず申し出てください

現行日銀ネットからの 業務面の変更内容	現行日銀ネットでは、個人向け国債の中途換金にかかる売渡（国債整理基金の参加者口座への振替および売渡代金入金店舗の日本銀行当座勘定への入金）を、3時同時処理・一般処理により行っています。  これに対し、新日銀ネットでは、個人向け国債の中途換金にかかる売渡を、中途換金日（売渡申込日の2営業日後）の午前11時以後に実行する扱いとするほか、国債DVP決済と同様の決済方式を用いることとなります。このため、個人向け国債の取扱機関等は、国債DVP決済を行うことができるようにする必要があります。  「新日銀ネットの入出カイメージ・コード等の詳細について（全面稼動開始後）」の資料 15-1、1. (11) 参照
------------------------	--

<p>新たに日本銀行に申し出が必要となる事項</p>	<p>新たに国債DVPの利用を希望する旨および国債DVPにおける資金受入・払込先          なお、個人向け国債の中途換金にかかる売渡代金入金店舗は、国債DVPにおける資金受入・払込先に限ります。また、既に国債DVPを利用している個人向け国債の取扱機関等が、全面稼働開始に伴って、資金受入・払込先を変更する場合には、申し出てください。</p>
<p>申し出を行う利用金融機関等</p>	<p>国債DVPについての日銀ネット利用金融機関等でない個人向け国債の取扱機関等（必ず申し出が必要です。）          —— 現行日銀ネットにおいて、国債DVPを利用している個人向け国債の取扱機関等は、申し出を行う必要はありません。ただし、上記のとおり、既に国債DVPを利用している個人向け国債の取扱機関等が、全面稼働開始に伴って、資金受入・払込先を変更する場合には、申し出てください。</p>

5. 業務運営

希望する場合のみ申し出てください

<p>現行日銀ネットからの業務面の変更内容</p>	<p>新日銀ネットでは、入力画面や出力帳票に表示する金融機関等および金融機関等店舗を示すコードは、現行日銀ネットで使用している金融機関等コードおよび金融機関等店舗コード（以下、本資料においては「現行コード」といいます。）に加え、B I Cコード<sup>(注)</sup>の使用を可能とします。          B I Cコードは、「金融機関等コード用」と「金融機関等店舗コード用」の2種類を登録可能とし、ひとつの現行コードに対し、最大5種類のB I Cコードを登録することも可能とします。また、同一のB I Cコードを、「金融機関等コード用」と「金融機関等店舗コード用」の両方に登録することも可能とします。          (注) Business Identifier Code の略。          「新日銀ネットの入出カイメージ・コード等の詳細について（全面稼働開始後）」の資料 17-1、2. 参照</p>
<p>新たに日本銀行に申し出が必要となる事項</p>	<p>金融機関等コード用、金融機関等店舗コード用のB I Cコード</p>
<p>申し出を行う利用金融機関等</p>	<p>希望する日銀ネット利用金融機関等</p>

以上

新日銀ネット第2段階稼働開始に向けた総合運転試験に関する検討事項アンケート（案）

提出期限：平成26年4月9日(水)  
 提出先：日本証券業協会 公社債・金融商品部  
 Eメール：jisyukisei\_bon@wan.jsda.or.jp

※ 本アンケート（御回答内容）は、上記Eメールアドレス宛てに送信くださいますようお願いいたします。

御回答日	平成26年 月 日
貴社名	
御担当部署	
御担当者氏名	

○ 新日銀ネット総合運転試験に向けた検討課題

検討番号	検討事項	内容	回答欄
1	RT（フェーズ2）の参加者の範囲及び参加回数	<p>総合運転試験（RT）実施の趣旨に鑑み、できる限り多くの市場参加者がRT（フェーズ2）に参加し、新日銀ネットに係る稼働確認を行うことが望ましいと考えます。</p> <p>上記を踏まえ、参加者及び参加回数については、以下のとおりとすることでよろしいでしょうか。</p> <p>(1) 参加者の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全面稼働開始後の業務には、国債の振替等の基本的な業務が含まれることから、証券市場の参加者である日銀ネット利用先は、特段の事情が無い限り、全ての先がRTに参加する。</li> <li>・ 国債振替決済を他の金融機関へ委託している先</li> </ul>	

検討番号	検討事項	内 容	回 答 欄
		<p>(生損保等)及び投信委託会社、投資顧問会社等については、試験実施日当日の参加は任意とする。ただし、決済受託金融機関及び受託信託銀行は、個々の決済委託者又は投信委託会社の試験実施日当日の参加の有無に関わらず参加する。</p> <p>(2) 参加回数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての国債・振替社債等DVP決済参加者は、少なくとも1回は必ずRT(フェーズ2)に参加する。ただし、CPU接続先等の証券市場の主要な参加者、決済受託金融機関及び受託信託銀行は、全てのRT(フェーズ2)に参加する。</li> </ul>	
2	RT(フェーズ2)のテストシナリオの検討時期について	<p>RT(フェーズ2)のテストシナリオの検討は、店頭WGの下にシナリオを検討するための検討部会を設置し、平成27年1月までにシナリオを作成する前提で進めたいと考えておりますがよろしいでしょうか。</p> <p>なお、検討時期については、他市場その他関係者と相談・調整の上、改めてご連絡します。</p> <p>また、RT(フェーズ2)に参加する各社におきまして、社内システム準備を円滑に進める観点から、</p>	

検討番号	検討事項	内 容	回 答 欄
		平成 27 年 1 月よりも前に確定させるべき現時点で想定される情報等がありますでしょうか。ある場合には確定させる時期およびその内容を可能な限り具体的にご提案ください。	
3	対象業務の範囲	<p>本協会がシナリオを作成する R T（フェーズ 2）の対象業務については、以下のとおりとすることによろしいでしょうか。</p> <p>① 国債資金同時受渡及び同時担保受払（市場参加者間での国債レポ（貸借取引及び新現先取引）、国債のアウトライト取引の D V P 決済（清算機関を通じた決済については、清算機関がシナリオを作成する。））</p> <p>② 国債振替決済（国債 F O P 決済）</p> <p>③ 振替社債等 D V P（一般債の D V P 決済）</p> <p>※ これに加えて、発行や償還、利払いのシナリオを含めた検討を行うべきか。</p>	
4	テストシナリオ	テストシナリオの検討に当たり、テストで確認又は検証したい事項（事務フロー、テストデータ等）がございましたら、対象業務ごとに、具体的にご提案ください。	
5	フェーズ 1 及びフェーズ 2	R T フェーズ 1 及びフェーズ 2 実施に当たり、日	

検討番号	検討事項	内 容	回 答 欄
	実施に当たっての日本銀行等への要望	本銀行、保振、J S C C等の関係機関への要望事項がございましたら、ご記入ください。	

以 上

### 新日銀ネット全面稼働開始に向けた総合運転試験の概要<sup>1</sup>（イメージ）

平成 26 年〇月〇日

日本証券業協会

#### 1. RTの目的

総合運転試験（以下「RT」という。）は、全面稼働開始時点から安定的に事務を行えるようにするため、日銀ネット利用先、主要な決済システム及び日本銀行の実務担当者が参加して、新日銀ネットを利用して行う業務の内容や端末操作、各種残高の管理方法等を確認・習熟するとともに、各種の取引・決済全体が円滑に行われることを総合的かつ最終的に確認する目的で実施される。

#### 2. RTの概要

RTは、目的に応じて、以下の2つの段階に分けて実施される。

- (1) フェーズ1（①日本銀行との取引に関する試験、②フリーアクセスによる機能確認）  
日銀ネット利用先と日本銀行との間の取引・決済に関する事務の確認・習熟を図るとともに、日銀ネット利用先間の取引・決済に利用する機能の確認を行う。

- (2) フェーズ2（①市場取引に関する試験、②日本銀行との取引に関する追加試験）  
フェーズ2の市場取引に関する試験では、本協会、全銀協、短取研及び全銀ネットが企画するテストを実施する。

本協会が企画するテストでは、本協会が提示するシナリオに基づき、証券市場等の参加者である日銀ネット利用先の間で、全面稼働開始後の市場慣行等に沿って、取引・決済全体が円滑に行われることを実践的に確認する。

本協会が企画するテストに参加する日銀ネット利用先の範囲や参加の回数については、以下に記載のとおりである（本年4月下旬までに本WGでご了解頂いたうえで、本年5月頃を目処に本協会等より通知予定）。

本協会では、フェーズ2全ての回についてテストシナリオを企画する方向で検討を進める。

#### 3. RTの回数・日程

RTの回数・日程は、以下のとおり（フェーズ1を3回、フェーズ2を4回実施予定）。

<sup>1</sup> 本通知は、日本銀行から本年2月28日に公表された「新日銀ネット全面稼働開始に向けた総合運転試験の実施概要について」（資料1）

（<http://www5.boj.or.jp/bojnet/newbojnet/newnet1402d.htm>）から、本協会の企画する試験に関連する記載を中心に抜粋したものをベースに、本協会が企画する試験に参加する日銀ネット利用先の範囲や参加の回数について記載したものである。

段 階		実施予定日	予備日	(参考) システム運用日付
フェーズ1	第1回(1日目)	2015年5月10日(日)	2015年	2015年2月18日(水)
	第2回(2日目)	2015年5月31日(日)	6月28日(日)	2015年2月19日(木)
	第3回(3日目)	2015年6月21日(日)		2015年2月20日(金)
フェーズ2	第1回(1日目)	2015年7月12日(日)	2015年	2015年3月18日(水)
	第2回(2日目)	2015年7月26日(日)	8月23日(日)	2015年3月19日(木)
	第3回(3日目)	2015年8月16日(日)	2015年	2015年3月20日(金)
	第4回(4日目)	2015年8月30日(日)	9月13日(日)	2015年3月18日(水)

※ テストの実施回数及び実施予定日は、今後の検討状況によって変更される可能性がある。

#### 4. RT（フェーズ2）の参加者の範囲及び参加回数

##### (1) 参加者の範囲

- ・ 全面稼動開始後の業務には、国債の振替等の基本的な業務が含まれることから、証券市場の参加者である日銀ネット利用先は、特段の事情が無い限り、全ての先がRTに参加する。
- ・ 国債振替決済を他の金融機関へ委託している先（生損保等）及び投信委託会社、投資顧問会社等については、試験実施日当日の参加は任意とする。ただし、決済受託金融機関及び受託信託銀行は、個々の決済委託者又は投信委託会社の試験実施日当日の参加の有無に関わらず参加する。

##### (2) 参加回数

- ・ 全ての国債・振替社債等DVP決済参加者は、少なくとも1回は必ずRT（フェーズ2）に参加する。ただし、CPU接続先等の証券市場の主要な参加者、決済受託金融機関及び受託信託銀行は、全てのRT（フェーズ2）に参加する。

##### (3) その他

- ・ RT参加予定先が開示された後には、各参加者が準備を開始するため、止むを得ない場合を除き、参加の取消し等の変更は行わない。

#### 5. RT（フェーズ2）の対象業務等

##### (1) 本協会がシナリオを作成する対象業務

RTの対象業務のうち、本協会がシナリオを作成する業務は、以下のとおりとする。

- ① 振替社債等資金同時受渡（振替社債等DVP） ※ 保振との調整が必要
- ② 国債振替決済
- ③ 国債資金同時受渡（国債DVP）

## (2) テストデータ

- ・テストシナリオ想定日の実際の取引を再現することを基本とするが、想定日にシナリオの対象となる取引（一般債DVPの取引データ等）がなかった場合などについては、架空の取引データを追加する方針で、今後検討を行う。
- ・テストでは、新日銀ネットを利用した1日の取引・決済のスケジュールを一部短縮して実施するが、実際の取引データを用いた取引におけるテスト上の決済時限の読み替え、市場慣行の適用時限の読み替え、テスト実施にあたっての留意点等については、今後検討を行う。

## 6. 実施環境

実施環境については、日本銀行公表資料（2014年2月「新日銀ネット全面稼働開始に向けた総合運転試験の実施概要について」（資料1））の「5. RTの実施環境」（P.19～P.27）を参照。

## 7. RTに関する情報開示等のスケジュール

- ・今後、日本銀行では、RTの実施に必要なシステム環境の準備や、日本銀行が提示予定のテストの実施手順書の作成を行うこととしている。また、本協会等では、市場参加者等と連携して、フェーズ2で実施するテストの内容の検討やシナリオの作成を行う予定である。日銀ネット利用先においては、自行システムの開発や事務処理態勢の整備とともに、RTへの参加に向けた準備を進めていただきたく願います。

- ・RTの実施に向けた情報の開示スケジュール等は、次のとおり。

### ① RTへの参加希望調査（実施予定時期：2014年5月頃＜回答期限：6月頃＞）

日本銀行から日銀ネット利用金融機関等に対し、参加を希望するテストの種類や回数の照会が行われるほか、新日銀ネットを利用して業務を行うために、追加的に必要となる金融機関等の情報が照会される。また、当該参加希望調査にあわせて、本協会では、本協会が企画する試験に参加する日銀ネット利用先の範囲や参加の回数について通知する。

なお、日銀ネット利用先のRTフェーズ1及びフェーズ2への参加予定（参加するテストの種類、回数）については、日本銀行がテスト参加先に開示する方向で検討している。

②テスト実施手順書（開示時期：次の（a）は2015年2～3月頃、（b）は2015年4～5月頃）

日本銀行からテスト参加先に対し、テストの実施手順書が提示される。実施手順書は、（a）RTを実施する環境全般や留意事項、主にフェーズ1で実施する日銀ネット利用先と日本銀行との間の取引・決済に関するテストの実施手順をまとめた「共通・日銀取引編」、（b）主にフェーズ2で実施する市場取引に関するテストのシナリオをまとめた「市場取引編<仮称>」の2つに分けて示される。このうち、（a）は日本銀行が、（b）は本協会、短取研、全銀協及び全銀ネットが主体となって取りまとめる。

- ・各回のテスト実施直後に、日銀ネット利用先と日本銀行との間の取引・決済に関するテストの実施結果（未実施のテスト項目、トラブルの有無等）について、テスト参加先は日本銀行に報告する。その結果については、必要に応じて、日本銀行からテスト参加先にフィードバックされる予定である。
  - 市場取引に関するテストの実施結果については、別途、本協会等において取りまとめを行う予定である。その結果については、必要に応じて、テスト参加先にフィードバックする予定である。

以 上